

# 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人 中国学園

## 2023年度中国学園運営基本方針

学長 千 葉 喬 三

### 1. 基本的課題

中国学園は、昨年、創立60周年を迎えた。60年の間、岡山地域の中核的な教育機関として多数の有為な人材を社会に送り出してきた。暦が還った本年度から改めて初心に戻り、他と遜色のない高等教育機関として質・量の整備充実を図る努力をしなければならない。高等教育機関を支える柱が教育と研究であることは自明である。ただ、この支柱が本来の機能を果たすためには、当然必要な財政的裏付けがなければならない。残念ながら、本学の財政状況は長期間に亘り支出超過状態が続き、ここ2、3年は殆ど危機的な状況にまで陥っており、早急な対応が必要になっている。

これまで述べてきたが、財政運営の要諦は、『礼記』にもある「入るを量りて出を制する」ことに尽きる。ただし、「入」対応と「出」対策は同時、等価ではないと考える。まずは「入」対応、言い換えれば、学納金が収入のほぼ全てを占める地方私学においては、入学者の増大確保を第一義として企図すべきである。

### 2. 入学者確保

近年の高校生の大学への進学経路は全国的に大きく変容しつつある。いくつかの受験傾向調査の結果や身近な現実が明確に示しているのは、①一般入試回避、②総合入試頭打ち③学校推薦入試増大である。とくに地方私大において顕著にみられる現象である。この傾向から明らかなように、本学においても全面的に学校推薦型入試に移行すべきと考える。このことについては、夙に提案してきたが学内で殆ど正面から受け止められないまま今日に至っている。その間、他校の後塵を被ることとなり、その粹取りすら難しくなっているのが現状である。しかし、困難であっても、現実を直視すれば行動に移さねばならないと考える。その一変法として、高校生にとって多少でも魅力ある総合型入試との組み合わせ方式を案出することもあるいは必要であろう。

他のオープンキャンパス、高校訪問、高大連携等の施策も学校推薦者確保の手段として位置づけて実施する必要がある。

### 3. 教育力の充実

上述したように、教育・研究は高等教育機関の支柱であるかぎり、その充実の必要性は論を俟たない。なかでも教育のレベルアップは、学生確保の際に重要な要因となっている。立地や施設、学用費に大差ない私学の中で高校生や高校・保護者が選択の参考にする因子は教育力である可能性が大きい。一般に、大学人以外が個々の大学の教育力を推し量るのは容易ではないが、資格取得者（率）や就職状況は容易に判る。日常そのことを意識して教育しているかどうかを積算すれば大きな差となって表に現れ、大学選択者の差となってくる。学生確保には教育力錬磨が必須である。無論、その中には本学が公称している「学生ファースト」の精神が含まれる。

### 4. 研究力の充実

研究力の評価も一般に学外者にとってはそれほど容易でない。しかし、その指標（手がかかり）はある。例えば、文科省科学研究費、種々の財団等の研究助成金などの外部資金の取得状況は公開されており、それらを閲覧すれば機関の研究力は一目瞭然であり、その意義はともあれ、このデータは学校序列に繋がる。本学の順位は低い。これは間接的ではあるが学生募集に影響する。研究活動が取り上げられる際、必ずといってよいほど、研究費の多寡が問題になる。しかし、研究費は本来自前で獲得すべきものであることを忘れてはならない。なぜなら自分の研究はテーマを含め自らが設定したはずである。そして研究費は一度歯車さえ回せば好循環する。いずれにしても、高等教育機関に身を置く者は他力本願を脱する必要がある。

## 1. 学校法人の概要

### ① 教学の理念

#### 「自律創世」

成人として自律し、自分の人生は自らが創ることにより社会の発展に寄与しうる人材を育成することを目指す。

### ② 沿革

1953 (昭和 28) 年	学校法人平田洋裁学園設立認可、平田洋裁学園設置 (岡山市船頭町 12 番地)
1962 (昭和 37) 年	学校法人平田洋裁学園を学校法人平田学園に改称 中国女子短期大学設置 (岡山市船頭町 12 番地) 家政科設置
1963 (昭和 38) 年	家政科第二部増設
1964 (昭和 39) 年	保育科増設
1965 (昭和 40) 年	中国女子短期大学を都窪郡吉備町 (現岡山市) 庭瀬 83 番地に移転 中国女子短期大学を中国短期大学に改称 英文科 音楽科 増設
1966 (昭和 41) 年	平田洋裁学園を平田デザインスクールに改称
1968 (昭和 43) 年	専攻科 音楽専攻設置
1977 (昭和 52) 年	平田デザインスクールを学校法人平田学園から分離 学校法人事務所を岡山市庭瀬 83 番地に移転
1988 (昭和 63) 年	幼児教育専攻科 英語英文専攻科 増設
1989 (平成元) 年	学校法人平田学園を学校法人中国短期大学に改称
1990 (平成 02) 年	家政科廃止認可
1992 (平成 04) 年	経営情報学科増設
1995 (平成 07) 年	専攻科音楽専攻 学位授与機構認定
1999 (平成 11) 年	人間栄養学科設置
2001 (平成 13) 年	学校法人中国短期大学を学校法人中国学園に改称
2002 (平成 14) 年	中国学園大学開学 現代生活学部人間栄養学科
2003 (平成 15) 年	中国短期大学人間栄養学科 募集停止に伴い学科廃止 専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止に伴い廃止
2006 (平成 18) 年	中国学園大学大学院開設 現代生活学研究科人間栄養学専攻 子ども学部子ども学科開設
2008 (平成 20) 年	専攻科 幼児教育専攻 廃止
2010 (平成 22) 年	中国学園大学大学院設置認可 子ども学研究科子ども学専攻 音楽科募集停止届出 中国短期大学平成 21 年度第三者評価、適格と認められる (短期大学基準協会)
2011 (平成 23) 年	中国学園大学大学院開設 子ども学研究科子ども学専攻 中国学園大学平成 22 年度第三者評価、適格と認められる (日本高等教育評価機構)
2012 (平成 24) 年	音楽科廃止
2013 (平成 25) 年	専攻科音楽専攻廃止 英語コミュニケーション学科募集停止届出

2014（平成26）年	国際教養学部国際教養学科設置認可
2015（平成27）年	国際教養学部国際教養学科開設 中国短期大学平成27年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会） 英語コミュニケーション学科廃止
2016（平成28）年	中国学園大学平成28年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）
2019（平成31）年	幼保連携型認定こども園 中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園開園（岡山市北区中撫川351番地）
2020（令和2）年	専攻科介護福祉専攻廃止
2021（令和3）年	総合生活学科（生活福祉コース）で介護福祉士学校の指定
2022（令和4）年	創立60周年
2023（令和5）年	中国短期大学令和4年度第三者評価、適格と認められる（大学・短期大学基準協会）

### ③設置学校等

学校法人中国学園	理事長：中島義雄
中国学園大学	所在地：岡山市北区庭瀬83番地 学長：千葉喬三
中国短期大学	所在地：岡山市北区庭瀬83番地 学長：千葉喬三
中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園	所在地：岡山市北区中撫川351番地 園長：河原智美

### ④役員及び教職員に関する情報

（令和5年5月1日現在）

					大 学	短期大学	小計	こども園
役 員	理 事	7名	教 員	常 勤	51名	25名	76名	23名
	評議員	22名		非常勤	48名	42名	90名	5名
	監 事	2名	職 員	常 勤	31名		6名	

※大学教員には、学長、副学長を含む。

※こども園職員には、園長、副園長を含む。

## 2. 事業の概要

### (1) 当該年度の主な事業の概要

#### 《大学・短大》

##### I. 学部・学科の重点的取組

###### ◎中国学園大学

###### 【現代生活学部人間栄養学科】

食・栄養にかかわる専門職の一員として必要となる技能の育成に重要な「実験・実習」が、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の「5類」に引き下げられたことにより、今年度前期より通常の授業方法で実施可能となった。また、1年生対象の工場見学研修およびテーブルマナー、3年生対象の地域連携活動も従来どおり実施し、社会で活躍できる管理栄養士の育成教育に繋げた。

管理栄養士国家試験合格に向け、3・4年生を対象とした学習の充実を実施し、1年生を対象にした入学時からの基礎学習の支援にも取り組んだ。また、2・3年生では家庭との連携を図る目的により説明会や三者面談を実施した。

##### (1) 学生募集のための広報活動の強化

入学試験受験者・入学者数の増加のため、高校訪問、出張講義、高大連携事業、公開講座の実施など取り組み、広報活動の強化を図った。

- ①今年度入学の1年生に母校の高等学校でお世話になった教員あての手紙を書いてもらい、学科教員が分担して手紙を持参して高校訪問を実施した。
- ②高等学校からの依頼による出張講義および進路説明を実施した。
  - ・出張講義：1校（参加生徒数約90人）
  - ・進路説明（職業理解や栄養分野に関する理解を図る模擬授業等を含む）：岡山県内9校、広島県4校、香川県1校（参加生徒数のべ150人）
- ③岡山県立高松農業高等学校食品科学科2年生38人が来学し（8月7日-8日 2日間）、本学1号館実験室および実習室にて本学部教員による授業を行い、高大連携事業を実施した。
- ④栄養セミナーⅢにおいて、3年生の学生により本学1号館調理室にて調理実習を伴う公開講座を開催した。
- ⑤人間栄養学科Instagramにより学科の授業内容やオープンキャンパスの案内など情報発信を継続して行った。

令和6年度入学者目標数を57人としていたが、新入学生数は36人であった。総合型選抜Ⅰ・Ⅱ期の受験者が遅れ、指定校推薦を含めた学校推薦型選抜による受験生も昨年度を下回ったことから、令和7年度入試ではオープンキャンパス参加者が総合型選抜Ⅰ・Ⅱ期に受験してもらえるよう、しっかりとした体制を確保したいと考えている。

なお、令和6年度3年次編入生は9人であった（香川短期大学5人、松山東雲短期大学4人）。毎年、両短期大学からの編入生があり、今後とも両短期大学との良好な関係を継続させ、安定した編入生獲得を目指す。

##### (2) 管理栄養士国家試験受験資格取得に向けた学習の促進と国試合格者の増加

入学初期での基礎学力の向上を図り、管理栄養士国家試験受験資格取得に向けた学習の促進に繋げた。

- ① 前期「ファーストイヤーセミナー」、後期「栄養セミナーⅠ」のなかで、基礎学力を充実させるため、独自テキストを用いて高校までの数学（計算力）の演習、文章問題の読解演習などを行い、計算力や国語力の向上を図った。
- ② 管理栄養士国家試験対策授業の「管理栄養士演習」「管理栄養士専門演習」「総合演習」の科目のなかで、国家試験合格へ向けた対策を実施した。また空きコマを利用して、学生には復習を奨励するなど管理栄養士国家試験に向けた対策を図った。
  - ・ 3年生対象「管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ」において、管理栄養士国家試験に求められる基礎的内容の理解を図るため復習を中心とする授業を実施し、国家試験に対する意識付け並びに国家試験への対策準備を行った。
  - ・ 4年次前期科目「管理栄養士専門演習」において、管理栄養士国家試験に求められる基本的内容の復習及び実践的問題演習等を実施し、理解度の向上及び実践応用力の蓄積を図った。
  - ・ 4年次後期科目「総合演習」においては、グループ学修による知識と理解度の向上を図るとともに、定期的に国家試験に準拠した模擬試験を実施し、その解説を行った。

以上の対策を講じたが、残念ながら令和5年度管理栄養士国家試験の本学合格率は、51.9%（管理栄養士養成課程の全国平均合格率80.4%）にとどまった。

### （3）キャリアデザイン教育の充実

現場経験のある教員および社会で活躍する卒業生を講師として職業講話を開催し、管理栄養士に対する理解を深め、将来の職業意識高揚を図った。

- ・ 前期「ファーストイヤーセミナー」、後期「栄養セミナーⅠ」のなかで、実社会における管理栄養士の使命や業務内容を知り、管理栄養士に対する理解を深め職業意識を高めるため、卒業生や管理栄養士資格を持つ実務教員による講話を行った。
- ・ 3年次前期科目「栄養セミナーⅢA」において管理栄養士に必要とされるコミュニケーション力、スケジュール管理、マナー講座等社会への対応ができる力の醸成を図った。
- ・ 3年次後期科目「管理栄養士実務演習」において、学校、事業所、福祉施設、病院、市町村の各職域で管理栄養士として活躍している卒業生や臨地実習でお世話になっている管理栄養士を招聘し、講話をしていただいた。

### （4）家庭と連携した学生支援

現場経験のある教員および社会で活躍する卒業生を講師として職業講話を開催し、管理栄養士に対する理解を深め、将来の職業意識高揚を図った。

- ・ 前期「ファーストイヤーセミナー」、後期「栄養セミナーⅠ」のなかで、実社会における管理栄養士の使命や業務内容を知り、管理栄養士に対する理解を深め職業意識を高めるため、卒業生や管理栄養士資格を持つ実務教員による講話を行った。
- ・ 3年次前期科目「栄養セミナーⅢA」において管理栄養士に必要とされるコミュニケーション力、スケジュール管理、マナー講座等社会への対応ができる力の醸成を図った。
- ・ 3年次後期科目「管理栄養士実務演習」において、学校、事業所、福祉施設、病院、市町村の各職域で管理栄養士として活躍している卒業生や臨地実習でお世話になっている管理栄養士を招聘し、講話をしていただいた。

### （5）地域連携活動による学生の経験値の向上

県内の団体、企業、自治体等と連携し、学生がレシピ開発等の実践経験を積むことで社会貢献に対する理解を深め、コミュニケーション能力を養い、学生生活の充実を図った。

た。

- ・栄養セミナーⅢの授業の一環として、岡山市保健所、JA 全農おかやま、おかやま市場、岡山市立綾南西公民館、放課後児童クラブ（吉備おひさまクラブ）と連携し、レシピ開発、健康推進啓発活動を実施した。
- ・栄養セミナーⅣ（卒業研究）の一部のゼミでは、地域の企業や施設（廣榮堂、特別養護老人ホームきび庭瀬）と連携して研究や活動を行い、その成果について白鷺祭時に卒業研究中間発表を行った。

#### （6）卒業教育の充実

卒業生に対し、新しい情報や知見を学ぶ機会の提供や国家試験対策など卒業教育に取り組むため、今年度は白鷺祭で来学した卒業生に対して、どのような研修を望んでいるかアンケート調査を実施した。

#### 【子ども学部子ども学科】

本学部は、平成 31 年(2019)年度に定員を 70 名から 100 名に増員し、その年には入学者は 107 名であったが、令和 2 (2020)年度 97 名、令和 3 (2021)年度 79 名、令和 4 (2022)年度 74 名、令和 5 (2023)年度 59 名と減じ、定員を満たしていない。そこで、令和 6 (2024)年度は、令和 5 年度に引き続き、定員確保を最重点課題として、本学部の運営を行っていく。

#### （1）令和 6 (2024)年度に向けての授業内容確認と充実

令和 3 (2021)年度入学生のカリキュラムに「子どもとダンス」（3 年次後期）、「子どもとゲーム」（4 年次前期）を配置した。令和 5 (2023)年度准学校心理士課程を開設した。令和 6 (2024)年度に向けて認定絵本土課程開設の準備を進めている。

#### （2）保幼コースと小学校コース 継続的な採用試験対策

教志会を中心とした勉強会や採用試験対策セミナーを実施した。

小学校一次試験対策セミナー 小学校系の授業中、希望があれば随時

小学校二次試験対策セミナー 8/7～8/17

幼保一次試験対策セミナー 8/24～26 2/6～9

実技・面接試験個別対応（4 年生対象） 随時

一般教養対策講座 6/14, 15, 21, 22, 28、29、7/5, 6

#### （3）教志会を中心とした子ども学科共通の活用拡大

子ども学科共通では、就職試験へ向けた自学自習が 3.4 年生を中心に年間を通じて活発に行われている。また、共通を会場として前期後期ともボランティア活動を計画・実施した。

#### （4）キャリア教育の充実

就職試験に課せられる筆記試験について、毎授業で小テストを実施し知識の定着を図った。また、二次試験で行われる面接、グループ・ディスカッション、実技などに対応できるよう外部講師を招いて授業を行った。

#### （5）M504 室の利用

M504 では、共通と同様に就職試験へ向けた自学自習が 4 年生を中心に年間を通じて活発に行われている。。

#### （6）岡山県備前県民局子育てカレッジとの共催

前期後期共に「中国学園大学こども・あごら」事業を実施した。

「おやこひろば」事業 7/22, 10/14, 15, R6 3/9

「学習支援」事業 10/14, 15, 11/19、12/14

「バレーボール」教室 R6 2/8

(7) 子ども学部子ども学科シンポジウム

令和3(2021)年度は「SGDs 推進教師・保育士の育成」をテーマにオンラインでシンポジウムを開催したが、令和4(2022)年度(実施日:令和5(2023)年2月)、令和5(2023)年度(実施日:令和6(2024)年2月)は、対面でシンポジウムを開催した。

(8) 募集広報の検討

保育所実習が始まる6月中旬から岡山県内・福山地区の高校への募集活動を行った。11月から幼稚園・小学校教育実習の指導訪問に合わせて高校訪問を行った。

(9) 子ども学科保護者会

11月の後援会総会後の学科別懇談会を実施し、意見を聴取することができた。

(10) 入学前オリエンテーション

令和6(2024)年度入学予定者を対象に入学前オリエンテーションを令和6(2024)年2月に実施した。

入学前オリエンテーションの内容: 課題図書・問題集・ピアノ実技指導等

(11) たねのくにこども園との連携

前期には、毎月1回「エプロンシアター」「プログラミング」を実施した。後期には、引き続き毎月1回「プログラミング」を行うとともに不定期に「エプロンシアター」「手袋シアター」「積み木遊び」「わらべうた・童謡」等を実施した。

**【国際教養学部国際教養学科】**

(1) ディプロマポリシー達成のための卒業研究支援

①卒業研究Ⅰ、Ⅱ: 指導教員の各ゼミにて研究計画策定、データ・文献収集、データ分析、論文執筆方法などの指導。

②卒論テーマの確認: 7月上旬4年生全員の卒業論文テーマを取りまとめ、進捗状況を確認した。

③中間発表会: 8月3日(木)に一人10分(発表5分・質疑4分・入れ替わり1分)でプレゼン形式により実施。4年生35名の卒業論文の進捗状況・今後の予定を確認。

④卒論の提出: 1月26日(金)17:00 厳守で卒業予定の34名全員が期限内に提出。

⑤卒業研究発表会: 2月5日(月)に実施。卒論提出予定者34名(卒業予定者)が質疑応答時間を含めた発表時間一人15分(発表10分・質疑4分・入れ替わり1分)でプレゼン形式により成果を発表した。また、発表内容を講義室掲示用のポスターにまとめて提出させた。

(2) 学習意欲を高める学生指導

①1年生: 入学後オリエンテーション期間及び導入ゼミナールを通じて人権教育、図書館ガイダンス、大学における学修方法について教育。数名ずつ担当教員を決め、研究の進め方について指導するとともに、PBL(課題解決型学修)の実践に取り組みグループ別発表会を実施した。後期は前期のグループによるPBL発表内容を英語でプレゼンした。さらに、全員英語eラーニング教材を



受講し英単語力の増進に努めた。年度当初と年度末に受験する TOEIC IP の結果を比較したところ、Reading スコアに上昇は見られなかったものの、Listening スコアは僅かな上昇が見られた。

令和5年度新規事業として、岡山県の産業に触れるとともに学生間および学生と教員の親睦を深めることを目的として、オリエンテーション研修を実施した。6月16日・17日に1泊2日で1年生全員参加とし、工場見学やテーブルマナー講習会、懇親会等を実施した。事後調査によると、学生の満足度の高い行事となった。

- ② 2年生：専門ゼミⅠ、Ⅱにおいて、論文、書籍の輪読を通して、先行研究の成果を学修する方法を指導。
- ③ 3年生：専門ゼミⅢ、Ⅳを通して、文献レビューと卒論のテーマ選定の指導。
- ④ 4年生：卒業研究Ⅰ、Ⅱ(旧教育課程)において、上記の卒業研究指導。
- ⑤ TOEIC IP： 英語学習の意欲を高める目的で、4月7日と2月15日の年2回実施。  
4月7日の受験者は、1年生17名。2月15日の受験者は、1年生7名。

### (3) 短期・長期海外留学支援

#### ① 夏季語学研修、春季語学研修の実施

令和5年度の教育課程より夏季語学研修と春季語学研修を科目として位置づけ、所定の条件を満たせば2単位を取得できるようにした。条件としては、留学先を夏季はカナダのバンクーバーアイランド、春季はオーストラリアのシドニーと決め、EF社の語学学校において3週間の語学研修を受けることとした。なお、これらの科目は他学部開放科目とした。令和5年度は夏季語学研修に1名(国際教養学部1年生1名)、春季語学研修には2名(国際教養学部1年生1名、子ども学部1年生1名)の参加があった。事後の聞き取り調査によると非常に高い満足度であった。

#### ② 海外インターンシップの計画

GMCの学生を中心に希望者をベトナムにあるナカシマプロペラの工場での研修やフエ大学(Hue University)との交流により、異文化体験や交流に取り組むことを計画したが、応募者がいなかったため実施には至らなかった。

#### ③ 長期海外留学

長期(セメスター)海外留学は、主に2年生を対象に後期に英語圏およびアジアの国際交流提携大学への長期留学を勧める事業として継続的に実施してきた。コロナ禍が落ち着いてきたことを受け、未実施だった3・4年生も対象として、国際交流提携大学及びEF社語学学校への長期留学を勧める説明会を開いた。しかしながら、円安を含めた世界情勢の急激な変化により希望者がいなかったため残念ながら実施できなかった。

### (4) 国際交流事業

#### ① MOU(提携校との覚書)の再締結

以前、協定を締結していた海外大学との覚書が期限を迎えたことにより、再度協定を結び直す目的でMOUを交わすための連絡を取り合った。

令和5年度にMOUの再締結を行った大学は3校：ハワイ大学(アメリカ)、グアム大学(アメリカ)、カルガリー大学(カナダ)である。これらを含め、本学とMOUを締結し、現在有効である提携校は14校となった。

#### ② 夏季語学研修、春季語学研修の科目設置(令和5年度入学生より)

令和5年度の教育課程より夏季語学研修と春季語学研修を科目として位置づけ、所定の条件を満たせば2単位を取得できるようにした。条件としては、留学先を夏季はカナダのバンクーバーアイランド、春季はオーストラリアのシドニーと決め、EF社の語学学校において3週間の語学研修を受けることとする。なお、これらの科目

は他学部開放科目とする。

③高苑科技大学との交換留学

夏期・冬期の文化交流については、高苑科技大学の判断により短期留学の派遣は中止された。

④ホンバン大学、大葉大学(台湾)、フエ大学(ベトナム)との交流

協定を締結した大学と今後、国際交流を促進する予定である。

(5) キャリア教育支援(就職支援事業)とインターンシップ

①トッパーリーダー講義

講師：萩原工業(株) 経営戦略室 室長 高宮 純一、(株)トミヤコーポレーション 代表取締役会長 古市 大藏、一般社団法人飛鳥学園 代表理事 堂野博之、岡山商工会議所 会頭 松田 久、日本貿易振興機構 所長 淵田 裕介、(株)システムズナカシマ特別顧問橋本幸夫などを招聘して実施。

②キャリアデザイン

講師：NPO エリア・イノベーション代表 藤井 智晴、(株)リョービツアーズ専務取締役 小童谷 靖則、ミチナス 代表 長江 由美子、Air Bonheur 代表 藤原 奈緒美、(株)ELN 代表取締役木下實子を招聘して実施。

④ インターンシップ

3年生11名が総社市役所、ANA クラウンホテル岡山、ビザビ、久米南役場、総社市役所、岡山ビューホテルなどで実施した。

(6) 資格取得支援

観光(ビジネス)実務士、上級ビジネス実務士、ビジネス実務士、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)、小学校英語指導者資格(J-SHINE 認定)、日本語教育課程修了証、社会福祉主事任用資格は本学の教育カリキュラム履修により取得可能(2・3年生の新カリキュラムでは観光実務士、上級ビジネス実務士(国際ビジネス)、社会福祉主事任用資格のみ取得可能、1年生の新カリキュラムでは観光実務士、上級ビジネス実務士(国際ビジネス)、日本語教育課程修了証、社会福祉主事任用資格のみ取得可能)であり、資格取得申請を勧めた。中学校・高等学校外国語(英語)教諭一種免許状取得希望者には、教科・教職科目を通して、教育実習の指導を行った。また、日商簿記検定や IT 検定、TOEIC、ファイナンシャルプランナーなどの資格も取得するように指導した。

(7) 学部広報の充実

①学部のコース構成の広報

リージョナル・マネジメントコース、グローバル・マネジメントコース、アグリ&フード・マネジメント・コースの3つのコースから構成されていることを周知すべく、大学案内、ホームページ、オープンキャンパス、高校ガイダンス、高校訪問などを通じて広く広報を行った。

なお、Web上の活動として学部の Instagram より、学部の諸活動の紹介を行った。

さらに、学部の PR 動画を撮影し、YouTube チャンネルにて公開した。

②高校への郵送による広報

県内高校の学校長宛に在学生の就学状況を含めた広報を郵送により実施した。

③ 高校訪問

5月から8月にかけて県内高校 44 校、鳥取方面 11 校、愛媛方面 5 校、広島方面 3 校、福山方面 3 校、外語学校 3 校に学部教員全員で分担して訪問した。9月からは学科長が訪問先を絞って訪問し広報した。

訪問時は進路課に訪問するだけでなく、知っている教員に会って PR することを心がけた。

#### ④高校内ガイダンス

入試広報課から依頼のあった高校において、当該分野の教員を派遣し、高校内ガイダンスを実施した。また、1月11日には第一学院高等学校においてミニオープンキャンパスを実施し、本学の留学制度や語学教育、PBLと地域連携について説明するとともに、入試制度や授業内容について質疑応答を行った。

#### ⑤高校での出前講座・講演会

入試広報課から依頼のあった高校において、当該教員が出前講座、講演会を実施した。

#### ⑥シンポジウムの開催

アグリ&フード・マネジメント・コース開設記念第2回シンポジウムとして、11月25日に「SDGsと農業の未来」というテーマで、農林水産省中国四国農政局次長 田中晋太郎氏、本学客員教授で全国共済農業協同組合連合会経営管理委員会会長 青江伯夫氏、県立高松農業高等学校校長 三輪貴氏を招き基調講演を行うとともに、農業科をもつ県立瀬戸南高等学校および県立高松農業高等学校の高校生を交えたパネルディスカッションを行った。

### (8) 連携事業

#### ①高大連携

岡山県立玉島商業高等学校3年生を対象とした「グローバル人材育成講座」において、本学教員が年間6回講座を行った。内1回(6月15日)は高校生が本学を来学し、特別授業として、高校生による自校紹介プレゼンと、本学学生による英語プレゼンを行うとともに、本学教員による異文化理解講座や外国人教員によるアメリカ文化講座を受講する形で実施した。

また、高教研英語部会との連携事業として「English on Campus」を8月7日に実施した。「英語プレゼンテーションを始めよう」というタイトルで本学教員2名が講師を務め、5名の高校生の参加があった。

#### ②地域連携

学校法人中国学園と包括連携協定先である久米南町で、規格外野菜(キュウリと柚子)を使ったレシピ開発に取り組んだ。また、ANAクラウンホテル岡山の中野総料理長と連携しレシピ開発を行った。2024年2月、レシピ本が完成し久米南町内の飲食店、農家に配布した。さらに、久米南町の多言語でのPR動画(日本語、英語、中国語、ベトナム語)を制作した。これらの取り組みの総括として、ビジネスプラン(久米南町「食」のサブスクリプションサービス)を完成させた。このビジネスアイデアは、地方創生☆政策アイデアコンテスト2023(官民連携部)で地方創生担当大臣賞など、8つの賞を受賞した。

### 【大学院現代生活学研究科人間栄養学専攻】

本研究科開設以来、継続・直面している課題は入学者定員充足が十分でないことである。この課題解決に向け、令和5年度は入学考慮している(してもらえる可能性のある)各層の人々(本学学生、他大学学生および社会人)に対し、本研究科入学にて習得・実現できることがどのようなことかの可視化をはかるために以下の点に重点をおき、事業を展開した。

#### (1) 研究指導(教育)の充実

今年度の在学学生は、幼児の身体的発育と食事摂取に関する生活習慣や栄養摂取状況の間にどのような関係がみられるかをあきらかにした研究成果を令和5年9月に日本栄養改善学会総会において発表し、そこでの討論を踏まえながら、学位論文を提出し、学位論文として水準に達していると審査された。また、昨年度修了生が筆頭著者となった英文論文が、関連領域で定評のある、International Journal of Biometeorology誌において出版された。さらに、同学生の研究指導に加わった高坂由里助教を中心としてなさ

れた研究成果も、Chugoku Gakuen Journalに掲載予定である。

## (2) 大学院入学者確保

上述のように、大学院生自身や担当教員等による研究指導により、もたらされた結果を学術集会や学術雑誌に発表することについては、成果が得られつつある。一方、来年度入学者確保に向けて注力するために、本研究科では在学生に向けての大学院教育の説明機会でもある現代生活学セミナーを11月14日に開催するなど、さまざまな努力を重ねて来たが、残念ながら令和6年度入学者を獲得することは出来なかった。

本研究科では、これら実効性のある事業について年度を超えて積み重ねることが重要であると考えており、次年度以降も事業を継続することにより入学生の確保を目指すこととしている。

## 【大学院子ども学研究科子ども学専攻】

本研究科は、入学生は令和2(2020)年度が2名、令和3(2021)年度が0名、令和4(2022)年度1名と定員5名を満たしていない。そこで、本年度も定員確保を最重点課題として、本研究科の運営を行っていく。

### (1) 柔軟なカリキュラムの運営

令和5年度は大学院生3名のうち、長期履修制度を利用した社会人学生が2名在籍していた。授業を夕方や休日に開講するなど社会人学生に対応した柔軟なカリキュラム運営を行った。

### (2) 各専門領域における研究活動

- ・令和5年度には、科学研究費補助金基盤研究(C)を受けている教員が2名おり、研究の成果を授業で紹介するなど大学院生の指導に生かしている。また、科研費研究を紹介する講座「ひらめきときめきサイエンス」に採択され、小中学生を対象として10月に講座を開催し、研究の成果を公開した。科研費は、令和6年からの新規研究に1名が採択された。
- ・令和6年3月には、「研究指導の在り方」と題するFD研修を実施し、研究科の授業を支える教員の個人研究の進め方について研修した。

### (3) 社会貢献事業として「プログラミング教育応援プロジェクト2」の実施(情報教育センター、子ども学部と共同)

本学情報教育センター、子ども学部との共同プロジェクト(中谷医工計測技術振興財団からの助成)として、近隣の小学校、小学校教育研究団体等へ延べ20件のプログラミング教材貸し出しや授業で講師を務めたりした。各学校におけるプログラミング教育を支援するとともに本研究科の知名度を上げることに貢献した。

### (4) 広報活動

- ①近隣の小学校、放課後児童クラブ、小学校教育研究団体等への重点的な広報活動  
長期履修制度を説明したリーフレットを作成し、近隣の小学校、放課後児童クラブ、小学校教育研究団体等へ配付した。特に「プログラミング教育応援プロジェクト2」を紹介するために岡山市内の40小学校を訪問した際には、大学院生募集のチラシを組み合わせ配付した。
- ② 子ども学部3、4次年生への進学勧誘  
8月に開催された修士論文中間発表会に合わせて、「大学院生と語る会」を開催したところ、子ども学部3年次生2名が参加し、大学院への進学意思を固めてくれた。また、1月に「大学院入試説明会」を開いたところ4年次生1名の参加があり、令和6年度の大学院進学へと繋がった。

### ③研修会等の機会を利用した広報活動

小学校・幼稚園・放課後児童クラブ等から研修会等に本研究科教員が講師として招聘された際には、大学院生募集リーフレットを配付している、令和5年度実績は、3件であった。

## ◎中国短期大学

### 【総合生活学科】

総合生活学科は、「生活創造コース」「医療事務コース」「生活福祉コース」の3つのコースに構成され、より快適な人間生活の創造をめざす分野を学ぶ。従来の衣・食・住からのアプローチはもちろん、健康・福祉・環境・デザイン・情報・コミュニケーションなどの現代生活に重要な分野について、専門的な知識や技術を幅広く学び、生活を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、社会の要請にこたえる実践力をもった専門職を育成するため、以下の事業を重点的に推進した。

(1)学生募集のための広報活動の強化(入学者数の数値目標 60名→24年度入学生 61名)

#### 【学生募集のための取り組み】

##### ・高校訪問

令和5年度は、本学科各教員が高い意識をもって学生募集活動を積極的に遂行した。学生の増員に全力で取り組む一環として6～8月にかけて、全教員が岡山を中心とする中・四国の高校訪問を実施し、その結果を学科会議などで報告し分析を行った。中国短期大学総合生活学科の知名度を上げるために学科独自のセカンドパンフレットやクリアファイルを作成し、高校訪問時に配布するとともに入試広報の参与の先生にも配布をしてもらった。

また、在学生や卒業生の母校である中・四国の高校の進学指導先生向けにDM(手書き手紙添付)を発送し、総合生活学科の責任ある教育支援をPRした。

##### ・中学校との連携

地域の中の中国短期大学総合生活学科を知ってもらうための活動を幅広く展開した。高校生の場合は、ある程度進路が決まっているので本学科や中国学園全体の知名度を高めるためには中学校からの連携強化が求められる。そこで、近隣の吉備中学校との連携に取り組み、本学や総合生活を知ってもらうためのプロジェクトを進めている。連携内容は、中学校への出前授業、本学にて職場体験、交流会、一日体験、夏休み特別授業を考えている。今年度はまず3学科の出前授業のプログラムに取り組み、3学科の出前授業のプログラムが完成した。

##### ・他学科との情報交換

短期大学3学科共通の認識の下で、オープンキャンパスの行事や高校訪問時におけるノウハウを互いの情報を共有しながら短大全体で学生募集の仕組みを構築した。その一環として、3学科合同会議を重ね、令和6年4月29日(月・祝)に津山で短期大学3学科合同00として「中国短期大学オープンキャンパス in 津山」を開催することになった。

##### ・オープンキャンパス内容の充実(総合生活学科の強みをアピール)

令和6年度の学生募集は当初の目標である60人の新入生を確保することができた。令和6年度は61名の新入生を迎えることができ、昨年度より11名の増員である。令和5年度には今まで通りの学生募集活動をする一方で、オープンキャンパスに参加した学生や保護者の気持ちを引き付けるためにオープンキャンパス内容の充実を図って活動した。本学科の分析では本学科のオープンキャンパスに参加した高校生の50%が本学科を志望し入学した。来年度はより一層オープンキャンパスの内容を充実させ、オープンキャンパス参加人数60%以上の入学者獲得を目指したい。

総合生活学科に高校訪問やオープンキャンパスを通して総合生活学科の強みを直接アピールする一方、SNS やチラシ、セカンドパンフレットなどを存分に活用した活動を拡大した。特にオープンキャンパスのリニューアルは高校生や保護者に総合生活の強みを示す良い機会であった。その内容は、分野ごとのブース制、在学生との雑談コーナー及びおもてなしの実施、スタンプラリーの実施などで、本学科を強く印象づける切っ掛けとなった。

## (2)教育内容の充実化

### ・資格取得の支援

総合生活学科では、各コース別に資格取得に力を入れている。学生が将来キャリアを重ねる際に資格取得は重要である。専門性が高い医療事務コースは多種の資格取得が義務付けられているので資格取得率が高い。ビジネス実務士（7名）、医事管理士受験資格（22名）介護保険事務管理士受験資格（13名）、医事管理士能力認定試験（8名）、社会福祉主事任用資格（21名）、その他、秘書検定、診療報酬請求事務能力検定試験の資格を取得している。生活創造コースでは、フードコーディネーター3級（3名）、食生活アドバイザー3級（3名）の資格を取得している。また、生活福祉コースの介護福祉士国家試験において7人全員合格で、昨年度と同様に100%合格率を達成した。

本学科では少なくとも一人の学生が二つ以上の資格・検定を取得している。

### ・ICT活用による学習支援

本学科ではPCを使用した授業も多く、学生のICTへの関心も高まり学習意欲につながった。学生と教員のコミュニケーションツールとしてG-mailやGoogle Classroom内に開設した各学年の「ホームルーム」でのクラス活動は続けられている。また、近年導入したUNIPAシステムにも慣れ始めており、その結果、学生は授業のみならず、就職活動にも積極的にICTを利用しており、活発化が顕著となっている。

### ・魅力ある講義の工夫

学習定着率の向上のため、教科目ごとに科目の特性に合わせてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、能動的・実践的な方法で学習効果を高めた。このような取り組みは教員の一方的な伝達型授業からの脱皮を試みた結果として学生からの評価も得ている。

## (3)キャリア支援の継続的運用の充実化

### ・キャリア教育の充実

総合生活学科の生活創造コースと医療事務コースの運営において、キャリア教育の充実には欠かせない課題である。本学科では1年生からキャリア教育に力を入れている。1年前期に「キャリア開発演習」、後期に「キャリア開発演習」を運用することによって、学生が将来の仕事に向き合う姿勢の自覚を促す支援を行った。

しかしながら、この取り組みの検証・評価を実施した結果、教員が一人で担当したこと、また、休職中のため細かい支援が届いてなかったことが反省点として上がった。今回の検証・評価結果を踏まえ、次年度では、より実践的キャリア教育を実現するため1年前期に「キャリア開発演習」と「キャリア開発演習」を統合し、4名の教員が担当することとした。

### ・就職支援の強化

1年生から就職ガイダンスに積極的に参加し、就職へのイメージづくりを図った。2年生は早い時期から就職活動ができるようにキャリア支援を行った。学生の就職活動に教員側も積極的に参加し、相談や助言を行うとともに、医療事務コース及び生活福祉コースでは、それぞれの担当教員が医療機関、社会福祉法人等への就職の指導をコース内の授業はもちろんのこと、授業外の指導でも対応した。

#### (4) 地域貢献の積極的な推進

本学科の魅力である生活に特化した地域貢献活動を進めてきた。令和5年度には総合生活学科の特徴や魅力をアピールしながら、情報発信の活動を継続的に行った結果、学科の教員が8件もの様々な地域貢献活動としての成果を得た。次年度も引き続き、近隣の中・高校を中心に連携を図り、地域に根差した学園として地域貢献活動を積極的に推進する。

#### 【保育学科】

本学科の育成する人材像である「乳幼児の保育・教育の教育研究を通じ、専門知識並びに技能の習得を図り、保育・教育現場において一人ひとりの乳幼児に合わせた指導のできる保育者として寄与できる人材」を養成するため、主として次の事業に取り組んでいる。（総則・目的）

#### (1) たねのくにこども園と連携を図った魅力ある授業づくり

- ・ 保育者基礎演習、(保育内容)人間関係、保育実習指導B、言葉の指導法、こどもの理解と援助等の教科では、たねのくにこども園の保育者のかかわりや子どもたちの様子、環境構成を見学し、講義や演習で学んだことを具体的に理解できるようにし、学びの総合化を図ることができた。
- ・ 教育・保育課程論、教育相談等の教科では、たねのくにこども園の全体的な計画やカリキュラム・マネジメント、保護者支援について、園長等からの説明等により、理論と実践を結びつけて具体的に理解できるよう進めた。
- ・ 本年度は、園とのやり取りの中で、夏祭りの園行事に参画させていただき、1年生がブースの運営や園行事の準備に関わらせていただくなど、こども園での行事を実体験することができた。

#### (2) 基礎学力・基礎技能の育成を図る授業づくり

- ・ 講義や演習では、学生が主体的・対話的で深い学びができるように工夫し、知識・技能、思考力・判断力、表現力の育成を図った。
- ・ 社会福祉等の教科においてNIE教育を取り入れ、読む力、考える力、書く力の強化を図った。
- ・ 音楽基礎演習の授業にグレード制を取り入れ、音楽の基礎的な技術の定着を図った。
- ・ 動画やPC、デジタル教材等のICTを活用した授業をおこない、個別に最適で効果的な学びや支援を実施した。

#### (3) 保育実習・教育実習における学びの充実

- ・ 保育実習・教育実習では、事前・事後指導に加えて現役の保育士や施設職員・幼稚園教諭・保育教諭が特別講義を実施することで、実習における学びの充実を図った。

#### (4) 保育学科発表会等の開催による学修成果の発表

- ・ 2024年2月12日、第51回保育学科発表会を無事開催することができた。
- ・ 2023年12月3日、高知市で開催された中・四国保育学生研究大会において、「地域の消防局と連携した防火に関する保育実践の提案」の演題で研究発表を行った。

#### (5) 地域連携・地域貢献の推進

- ・ 中短子育てパーク事業を吉備公民館と共同開催し、親子ふれあい演習の授業の一環として、学生が企画した室内遊びや中庭での水遊び等を実施することを通して、地域の子どもや保護者の交流の場の提供を行った。(年間5回実施 5・6・11・12・1月)
- ・ 2024年3月10日、ちゅうたんおもちゃ公園を開催し、おもちゃや絵本のリユースシステムの構築やプレーパークを実施し、地域の人々が地域の子育て支援に参画できる場を提供した。

- ・2024年2月16日、岡山市立吉備西・吉備東幼稚園の園児と学生との交流会を開催した。
- ・アイサワ工業（株）並びに（株）アイサワ商事のSDGs事業に協力し、岡山市立吉備小学校の学童保育「吉備おひさまクラブ」の子どもたちと学生とで建築廃材などを用いた造形活動（2023年8月実施）や商店街での展示活動（2023年11月19日）を実施した。

(6) ホームカミングデイ、リカレント研修会等の開催による卒業生支援

- ・前年度卒業生の就職先を訪問し、卒業生本人の様子を把握するとともに、5月28日にホームカミングデイを実施し、卒業生からの相談や近況報告を受けるなど早期離職を回避できるよう努めた。
- ・10月14-15日に「卒業生のためのしゃべり場」や、「リカレント研修会」を開催し、卒業生の支援に努めた。

(7) 学科の魅力を発信するための広報活動の充実

- ・入試広報部と連携を密にして、高校ガイダンス等へ積極的に参加した。
- ・四国からの入学者獲得に向け、四国担当の参与の方と教員と一緒に各校を回り、学生の獲得に繋げた。
- ・高大連携を利用して、高校での出前授業を行う。昨年度からの岡山南高校との連携は、本年度も継続し学生の獲得につなげることができた。
- ・保育学科の魅力を多くの人に知ってもらうため、SNS等デジタルコンテンツにより広く情報発信を行った。

### 【情報ビジネス学科】

情報ビジネス学科では、「情報処理やビジネスに関する専門的・実践的な教育研究を通じて、職業人としての能力の習得を図るとともに体験学習などを通して総合的な人間力を養い、地域および広く社会の発展に寄与する人材の育成」に取り組んでいる。

(1) 学生募集のための広報活動の強化（入学者数の数値目標 64 名）

今年度の入学者数は 35 名と残念ながら目標を達成することが出来なかった。今年度計画の「SNS や YouTube など、近年の広報活動の重要な手段となっているデジタルコンテンツを活用して、学科の特色を活かした募集活動を展開」が実施に至らなかったことが、要因の一つと考えられることから、早急に改善したいと考えている。

(2) 学修内容のレベルアップ

本学科では専門フィールドとして、「情報」、「メディア」「経営・会計」、「ビジネス・キャリア」の4つのフィールドを持っている。それに加えて「心理学」、「データサイエンス」「課題解決型実践学修」の3つの領域を設置し、幅広いニーズに応えることのできるカリキュラムとなっている。その成果として資格取得については、今年度、日商簿記検定3級9名、ITパスポート1名の合格者を達成することができた。単位取得による資格では、上級情報処理士30名、上級ビジネス実務士23名、プレゼンテーション実務士20名、社会調査アシスタント19名、ウェブデザイン実務士9名、社会福祉主事任用資格26名をはじめ、数多くの単位取得者を育成できた。

また、本学科ではゼミナール制度を設けることで2年生全員がゼミナールに所属して、より高度で専門的な学びが出来るように対応している。今年度は「企業・業界研究」「行動経済学」「会計・ファイナンス」「Web・メディア」「ICT」「データ解析」「音楽」の7つのゼミナールを開講し、よりきめ細かな指導を行った。

(3) 実践型体験学修の強化



授業で得られた知識やスキルを実践する力を育成するための実践型体験学修の強化を図った。今年度、「デジタルフォト」の授業（履修者21名）では、教室を離れ後樂園をフィールドに、プロのカメラマンから実践的な指導を受けながら写真撮影を行い技術の向上を図った。

また、「会計・ファイナンス」のゼミナール（履修者5名）では、日経ストックリーグにエントリーして、経済のファンダメンタル分析、企業分析、ポートフォリオ理論に基づいた仮想投資を行うなど、実践的な学びを体験できた。

## Ⅱ こども園の重点的取組

### （1）地域のこども園として

本年度は、3歳未満児60名、3歳以上児123名、合計183名でスタートした。その後は毎月入園希望者があり、地域から求められる「こども園」となっているが、年齢によっては、定員を充足していることもあり、受け入れが出来ない状況にもある。漸く本年度、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、子育て支援講座やふれあい親子広場を実施し、地域との交流を積極的に進めてきた。

### （2）大学・短期大学との協働

#### ①園児対象に大学・短期大学の教員や学生が行うもの ＜遊びの提供＞

運動遊び、プログラミング、英語遊び、エプロンシアター、わらべうた、リトミック、科学遊びなどを体験した。

#### ②大学・短期大学の教員や学生を対象にこども園で行うもの

こども園での授業（子ども学科・保育学科）、保育実習（子ども学科・保育学科）教育実習（子ども学科・保育学科）の受け入れ、調査研究への協力（子ども学科・人間栄養学科）、学生サポーター、学生ボランティア、園内研究（大学と短期大学の先生とこども園職員）を実施した。

### （3）子育て支援

#### ①園児の保護者に対するもの

延長保育事業、幼稚園型一時預かり事業、教育・保育相談を実施した。

幼稚園型一時預かり事業の利用者が増加傾向にある。

#### ②地域の子育て家庭に対するもの

一時預かり事業では、勤務形態によるもの、私的理由によるもの等の理由で4名の登録があった。

子育て支援講座は、7回開催し、34家庭の親子が参加した。

ふれあい親子広場は、月1回年8回実施し、親子で65名が利用した。

令和5年度より年3回親子会を実施し、親子で34名が利用した。

### （4）教育及び保育の質の向上

中国学園大学・中国短期大学教員による園職員対象の園内研究を実施した。

また、令和5年度 岡山市保育協会保育研究会（11月18日）第3ブロック研究発表 岡山県保育協議会研究大会（令和6年1月18日）で研究発表を行った。このことは、園職員の資質向上に繋がっている。園内では、大学の教員にわらべうたの指導、リトミックの指導と研修を受けた。教育及び保育の質の向上にも繋がっており、今後も継続的に取り組んで行くこととしている。

## Ⅲ 事務局及び機関の重点事業

## (1) 学生確保の取組みの充実・強化

入試広報部独自の取組みだけでなく、中国学園改善検討会議で決定された取組みを各学部・学科と協力の下、広域に実行しているが、残念ながら令和6年4月入学者の減少を阻止することが出来なかった。18歳人口減少という全体の動向を含め、近年、急速に強まっている大都市圏の有力大学への流出や県内の私立大学が年内の入試で入学者数の確保を図る傾向が大きく影響したものと考えられる。

入試については、いずれも滞りなく終了しているが、受験者数の動向などの状況を踏まえ、来年度実施の入試から、共通テスト利用、一般選抜Ⅰ期Bを廃止し、総合型選抜Ⅳ期を一般選抜Ⅲ期に改組することとした。

専願の入試区分での入学者が大半を占める傾向は、一層強まっており、併願可能な選抜での入学者数は全体の10%ほどである。学科別では、現代生活学部については、昨年度は大幅に減少し、今年度はさらに減少した。子ども学科については、昨年度は減少、今年度は増加したが、一昨年度の水準には届かなかった。国際教養学部については、昨年度増加したが、今年度は一昨年度とほぼ同水準に止まった。総合生活学科については、昨年度減少したが、今年度は増加し、一昨年度の水準を超えた。保育学科については、一昨年度、昨年度とほぼ変動なく、情報ビジネス学科については、一昨年度、昨年度と少しずつ増加して来たが、いずれの学科も今年度減少した。

- ①さまざまなチャンネルにより高校生、保護者、高校教員と接触し、信頼関係を構築した上で、本学の魅力を対面で発信する。
  - ・単発の出張講義を14回実施した。複数回の講義、来学しての実習などの高大連携は、3校との間で推進している。いずれも、即効性とまでは至らないかもしれないが、信頼関係を構築するとともに、本学受験への意識付けに貢献しているものと理解している。
  - ・学部・学科の教員と入試広報部の職員が連携して行う高校訪問を36回実施した。
  - ・連携協定校である倉敷高校との取り組みは実行されている。銀河学院高校については具体の取り組みに至っていない。
  - ・ミニオープンキャンパスには12名が参加した。通常のオープンキャンパスに参加できなかった生徒の困り込みに活用している。
  - ・「CGスマイル」が積極的に活動しており、学生のアイデアでさまざまな改善がなされた。
  - ・在学生による母校訪問を推奨し、15名が実施してくれた。
- ②Webでの情報発信・広告を見直し、内容・方法を改善する。
  - ・出願者の多い高校の周辺に対して、ジオターゲティング広告を6月から実施したが、目に見える効果には至らなかった。
  - ・LINEのお友だちづくり、チラシ、電柱広告などを実施しているが、Webへのアクセスに顕著な影響を与えることができなかった。
  - ・LINE、Instagramでの情報発信は引き続き行っている。
- ③時期、対象に応じた印刷物での情報発信を強化する。
  - ・総合型選抜の説明、オープンキャンパスの案内など特定の時期に注目される内容に限定したチラシを作成し、各学科作成の独自リーフレット等と併せて高校訪問で活用している。外部評価において総合型選抜のチラシが高評価を得るなど、有効に機能していると判断している。
  - ・保護者用、入試制度に焦点化したリーフレットは本学関係者、受験生・保護者のいずれからも評判がよい。

## (2) 学生支援の充実

教学の理念である「自律創世」の考えを基本として、学生の自主性を尊重し、多様化する学生の実態をとらえ、学生の自律心、社会性、人間力を育てるための施策を企画し、学生支援の質の向上を図る。

## 1. 就職支援の充実強化

令和5年度の卒業生の就職率は大学 99.4%、短期大学 97.4%であった。高い就職率を維持し、学生一人ひとりが満足した就職ができるように、次の3点について学生支援体制を強化する。次に、3月29日現在の就職状況を示す。

1 各学部・学科の教員と就職支援センターの職員との連携を強化する	
就職内定率を一層高く保持するために、学部学科の就職支援委員会を中心とした教員との連携を強化する。そのために、学生との面談及び就職支援委員会との情報共有を図る。	
まず、就職支援委員会を中心として、学部学科との連携を深め、該当学生と早期に面談を実施する。特に、一般企業就職希望の学生が多い学部学科を中心として実施する。一昨年試験的に一部の学部学科で実施したところ、効果が現れたことから、他学部へも拡大していきたい。	
次に、就職支援委員会と就職支援部職員とで学生一人ひとりの就活情報の共有を図る。これにより、企業から入手したカレントな情報も就職支援委員の先生方と共有し、学生に自分の希望する仕事の情報を提供することで、今まで以上に強力な取り組みが可能となる。	

### (1) 3月29日現在の就職状況

		令和5年度					令和4年度(3/29)	
		卒業数	就職希望者数	内定者数	内定率	進学者数	内定者数	内定率
大学院	人間栄養学専攻	1	1	1	100.0%		1	100.0%
	子ども学専攻	2	0		—		2	100.0%
	小計	3	1	1	100.0%	0	3	100.0%
大学	人間栄養学科	34	31	23	74.2%	1	51	96.2%
	子ども学科	94	92	86	93.5%	1	99	96.1%
	国際教養学科	34	33	31	93.9%		19	95.0%
	小計	162	156	140	89.7%	2	169	96.0%
短期大学	総合生活学科	55	50	47	94.0%	1	42	95.5%
	保育学科	80	77	73	94.8%	3	62	91.2%
	情報ビジネス学科	43	40	35	87.5%		39	84.8%
	小計	178	167	155	92.8%	4	143	90.5%
合計		343	324	296	91.4%	6	315	93.5%

進路相談等での面談状況は4月から3月までに延980人(24卒学生)であった。また、学部独自の早期面談については、国際教養学部国際教養学科の24卒学生35人、25卒学生17人実施、情報ビジネス学科の25卒学生25人実施。学部学科からの要請もあり、次の表のとおり連携している。

### 令和5年度当面就職支援センターと学部学科との連携状況

	CRICS登録	就職について説明等	面談
人間栄養	1年	2, 3, 4年	
子ども	1年		

国際教養	1年、3年	3年	4年 3年
総合生活	1年	1年	
		2年	
保育	1年		
情報ビジネス	1年	1年	1年

## (2) 就職支援委員会

就職支援委員会は年間8回実施した。内容は次のとおり。

回数	実施日	内 容	会 場
1	4/5 水	令和5年度事業計画、委員会年間計画スケジュール、学科と協力して実施する計画、第1回就職ガイダンス実施内容、学内相談会詳細企画、令和4年度就職状況、昨年度の事業計画最終報告	第1会議室
2	5/24 水	各学科の就職活動・支援状況について、昨年3月実施のアンケート結果について(学科別)、就職状況・支援活動について、第1回就職ガイダンス参加状況、就職ガイダンス近日開催予定、就職支援センターと学部学科との連携状況(4月21日現在)、学内相談会、次年度就職ガイダンスの実施方法について	M202
3	6/14 水	各学科の就職活動・支援状況について、求人及び就職活動・支援活動について、5月末求人データ、5月末求人比較、相談会参加者数及び内容、就職支援センター利用状況、就職ガイダンス参加状況(第1回、第2回)、次年度就職ガイダンスの実施方法について(継続)、今年度ガイダンスの意見(不満、やや不満、普通と回答したもの)	M202
4	7/26 水	学内相談会について(相談内容他)、学内相談会アンケート実施について、各学科の就職活動・支援状況について、次年度就職ガイダンスの実施方法について(継続)、求人状況及び支援活動について、就職支援センター利用状況、進路内定届提出状況、大学コンソーシアム岡山(第27回就職支援委員会)の報告	M202
5	10/18 水	次年度ガイダンスについて、学内相談会アンケート結果について、各学科の就職活動・支援状況について、研修・出張報告(日本私立大学協会中国・四国支部 就職部課長相当者分科会)、求人状況、就職支援センター利用状況、進路内定届提出状況、クリックスについて、出張ハロワークについて、大学祭アンケートについて、就職個人カードについて	M301
6	12/20 水	次年度事業計画について、各学科の就職活動・支援状況、求人状況、進路内定届提出状況、2024年度就職ガイダンス計画について、第12回就職ガイダンス「企業発見！企業研究セミナー」について、研修報告(日本私立大学協会主催 令和5年度就職部課長相当者研修会)、卒業生アンケートについて	M202
7	1/17 水	2024年3月卒業の未内定者及び2025年3月卒業の学生についての支援状況について、就職ガイダンス当面の行事予定、求人状況及び支援活動について、進路内定届提出状況	M301
8	2/14 水	第12回就職ガイダンス「企業発見！企業研究セミナー」について、2024年3月卒業の未内定者及び2025年3月卒業の学生についての支援状況について、2024年3月卒業対象の就職支援センターに関するアンケート、求人状況、25卒からの求人票の見方について、大学コンソーシアム岡山主催「令和5年度岡山県合同企業説明会、進路内定届提出状況	M202

## (3) 学内相談会の実施

今年度、就職支援委員会の先生方と連携して、新たに「学内相談会」を実施した。

学内の中庭や学生食堂等の学生が多く集まるところに相談コーナーを設置し、就職支援センターの職員と就職支援委員の先生でブースを設けることで気楽に相談できる場をつくる

### ア 目的

- ・学生が就職支援センターの職員を知ることができ、就職支援センター利用促進になる
- ・早くから学生の就職への意識が芽生え、職業観・勤労観の育成につながる
- ・相談することにより、学生本人のコミュニケーション能力の育成につながる

### イ 日程 6月 12:40~13:00

月	火	水	木	金
5	<b>6</b>	7	<b>8</b>	9
12	<b>13</b>	14	<b>15</b>	16
19	<b>20</b>	21	<b>22</b>	23
26	<b>27</b>	28	29	<b>30</b>

就職支援学内相談

日	曜日	学科名	学年	相談内容
6	火	情報	1	編入学について
6	火	情報	1	就活の方法について
6	火	生活	2	就職支援センターに行ったことがない → そのまま就職支援センターへ
8	木	子ども	3	進路に迷っている。保育士資格は取得したい 余裕をもって子どもに向き合いたいため小規模園を希望 → 後日就職支援センターへ
8	木	情報	2	1社最終、1社二次選考・面接対策についての相談・SPI対策本を見たい → 就職支援センターへ
8	木	生活	2	福山市で医療事務を希望 → 6/8(木)5限目に再度就職支援センターへ
8	木	生活	2	福山市で医療事務を希望 → 6/8(木)5限目に再度就職支援センターへ
13	火	生活	1	島根県出身で医療事務を考えているが、一般企業も視野に入れている → ジョブカフェしまねのサイトを紹介 積極的にイベントに参加するよう伝える
13	火	子ども	4	岡山市か倉敷市で就職希望 → 高梁川流域合同説明会のイベントを案内 後日就職支援センターに来るように伝える
15	木	生活	1	医療事務の就職時期について インターンシップマッチングフェアで質問する内容
15	木	生活	2	動物の助手を希望していたが求人が無く、他に何の仕事を探すか迷っている
15	木	生活	2	夢がない したいことがなくて困っている
15	木	生活	2	事務職希望 県外で就職したい
15	木	生活	2	事務職希望 県外で就職したい
15	木	国際	3	出版（今は本屋でアルバイト）、編集・企画を希望
20	火	国際	4	面接対策
20	火	国際	4	SPIが不安
27	火	情報	1	就職について 金融関係を希望している → 就職支援センターに相談に来る
27	火	国際	4	公務員（総社、岡山、倉敷等）希望 → 就職支援センターに相談に来る
30	金	子ども	2	マイナビの登録方法
30	金	子ども	2	マイナビの登録方法

## 相談会の様子



### 2 インターンシップの推進・強化

インターンシップの重要性が叫ばれるようになり、必要性が年々深まってきた。学生にインターンシップの正しい知識を与えることで社会や企業を知ってもらう。

さらに、ミスマッチを無くし、幸せに就職できるように、一人でも多くの学生をインターンシップに参加させる。そのために、インターンシップの重要性を常日ごろから呼び掛けるとともに、学生に目的を持たせてインターンシップへの参加を促す。

また、学内インターンシップイベント等を積極的に計画実施し、参加させる。

6月7日(水)に予定通り、インターンシップガイダンスを実施。今回の講師は、株式会社リクルートの藤田有佳子氏と株式会社マイナビの奥原峻氏の2名で行った。

月 日	時 間	回数	内 容
6/7(水)	14:50～16:20	2	ここから始める仕事研究・インターンシップガイダンス

各学科の在籍数に対する参加率は次のとおりだった。事前申込制を導入しているため、質問も多く、参加者には充実したガイダンスとなった。

人間栄養		子ども		国際教養		総合生活		保育		情報ビジネス	
人数	参加率	人数	参加率	人数	参加率	人数	参加率	人数	参加率	人数	参加率
24	64.9%	4	4.1%	8	21.6%	42	76.4%	21	24.4%	17	38.6%

インターンシップの実績は、原則、就職支援センター提出の報告書によって把握している。学部・学科の面談で入手した情報もあり、インターンシップ参加者は増加している。本学では、「1day仕事体験」についても、積極的に参加を呼び掛けている。

また、実施事業所は増加しており、その都度学生にメールで知らせている。新規に食堂の一角に実施企業のリーフレットを掲示し学生に情報を提供した。

### 令和5年度インターンシップのまとめ（報告書及び面談からの情報で作成） (人)

学 科	実 施 場 所	参加延べ人数
栄 養	岡山県備前保健所衛生課(1)、(株)フレスタホールディングス、(株)ザグザグ	3
子 ども		0
国 際	総社市(4)(JA岡山(2) 両備システムズ つばめガス ワークスマイルラボ C3 トマト銀行 キャリアプランニング 萩原工業 おかやま信用金庫 ANAクラウンホテル(2) コウセイカン(2) ANAエアポートサービス 創心會 天満屋 ネットトヨタ山陽 ベッセルイン 久米南町 イタミアート ザグザグ ビザビ 両備システムズ)	4(24)

総 生	倉敷中央病院（２）	2
保 育		0
情 比	ホシザキ四国(株)、(株)ダブルツリー（２）、(株)香川銀行、湯快リゾート(株)、プブレひまわり(株)、セントスタッフ(株)、岡山県信用保証協会、(株)イタミアート（３）、(株)トマト銀行（２）、おかやま信用金庫（２）、中国銀行（３）、グランベルホテル(株)、(株)オーガランド、(株)アインホールディングス、(株)イング、ユノテカ(株)アサヒグループ（２）、(株)ハローズ（２）、リンク情報システム(株)（２）、(株)レントラックス、(株)BMU（８）、両備ホールディングス(株)、サンワサプライ(株)、クラブン(株)、ピコシステム(株)、東都システムズ(株)、(株)マイナビ（２）、(株)セガ（２）、(株)日本セレモニー、(株)ビッグ・エス、(株)いのうえエヴァホール倉敷本社、中国労働金庫、(株)クラップス、水島信用金庫、(株)川上水産運輸、(株)エージーピー、吉備信用金庫	55
	合 計	64 (24)

※（ ）内については、面談からの情報による

### 3 就職ガイダンスの工夫と改善・充実

学生が望んでいるタイミングで、適切なガイダンス内容を実施する。就職支援委員の先生方と協力し、一人でも多く参加するように学生に働きかける。

内容は、講義形式から、学生自ら実施するワーク形式への変更等を積極的に実施する。場合によっては、携帯端末の利用もさせる。

また、ガイダンス当日記入する「ガイダンス日誌」及び、各ガイダンス時に配付した資料等をファイリングさせ、就活に役立てさせる。

特に、ガイダンス参加者に書かせている「ガイダンス日誌」については、就職支援委員の先生方にも見ていただき、学生一人ひとりがガイダンス参加時に何を学んだか知ることができる。これによって、就職支援委員の先生方と同じ方向で 学生に対し適切なアドバイスができる。

#### (1) 2025卒の就職ガイダンスのまとめ



日付 時間帯	回数	内容	講師他	形式	会場	準備物
5/10(水) 14:50～16:20	1	中大学生のための スタートアップ就活準備ガイダンス	就職支援部 部長 山口裕行 就職支援部 課長 山根康史 就職支援部 主査 安藤七重 就職支援部 事務員 徳永 咲 人間栄養学科 教授 小野尚美 子ども学科 准教授 伊藤智里 国際教養学科 講師 大宮めぐみ 就職支援部 課長 板野敬吾	講義と実習 (ワークシート)	M301	スマホ
5/17(水) 14:50～16:20	1	中短生のための スタートアップ就活準備ガイダンス	保育学科 准教授 鳥越亜矢 総合生活学科 准教授 仁宮 崇 情報ビジネス学科 教授 平井安久 入試広報部 部長 中塚多聞 就職支援部 部長 山口裕行 就職支援部 課長 山根康史 就職支援部 主査 安藤七重 就職支援部 事務員 徳永 咲	講義と実習 (ワークシート)	M301	スマホ
6/7(水) 14:50～16:20	2	ここから始める 仕事研究・インターンシップガイダンス	株式会社リクルート 藤田有佳子 氏 株式会社マイナビ 奥原 峻 氏	講義と実習 (ワークシート) 就職情報サイトの登録 自己分析 仕事体験の活用	M301	スマホ
10/4(水) 14:50～16:20	3	身だしなみ講座	はるやま商事株式会社 就活ディレクター 野村 興 様 野津靖子 様	講義と実演・実習	M301	スーツ 着用
10/11(水) 14:50～16:20	4	メイクセミナー	「Aurora」メイクアップアーティスト 畠 真寿美 様	講義と実演・実習	M301	スーツ 着用
10/18(水) 14:50～16:20	5	先輩からのメッセージ	大学4年生及び短期大学2年生 16名	各ブース形式	M301 M303 M304 3Fホール	
10/25(水) 14:50～16:20	6	履歴書・ES対策講座	株式会社マイナビ 奥原 峻 氏	講義と実習 (ワークシート)	M301	ワークシ ート
11/15(水) 14:50～16:20	7	企業研究①	コオ・マネジメント 窪田 司 様 ダブルツリー 倉崎有子 様 ファーマシー 阪口利奈 様 水島信用金庫 小野真弓 様 両備グループ 仁科明子 様	パネルディスカッション	M301	スーツ 着用
11/29(水) 14:50～16:20	8	面接対策講座	株式会社マイナビ 奥原 峻 氏	講義と実習	M301	ワークシ ート
12/6(水) 14:50～16:20	9	学内仕事研究&インターンシ ップフェア	トマト銀行 越智悠輔 様 日産サファイア岡山 二宮裕美 様 マックスバリュ西日本 小松原 理永 様 ピコシステム 伊東 郁枝 様 つばめガス 嶋田 梨花 様 レイANAクラウンプラザホテル岡山 小野田 恭子 様 サンヨープレジャーグループ 田中 伸男 様 大善 秋庭佳典 様	各ブース形式	M301 M303 M304	スーツ 着用
1/10(水) 14:50～16:20	10	企業研究②	コオ・マネジメント 窪田 司 様 岡山マツダ 濱野由香里 様 外林 林 真菜 様 トスコ 森山俊太郎 様 八州電気工業 山本有香 様	パネルディスカッション	M301	スーツ 着用
1/17(水) 14:50～16:20	11	求人票の見方がみるみる分か る！就活準備丸わかりセミナー	就職支援部 部長 山口裕行 就職支援部 課長 山根康史 就職支援部 主査 安藤七重 就職支援部 事務員 徳永 咲	講義と実習 (ワークシート) 寸劇	M301	スマホ

日付 時間帯	回数	内容	講師他	形式	会場	準備物
2/7(水) 13:30～16:00	12	学内合同企業研究セミナー	イタミアート 伊丹裕子 様 服部真子 様 エブリイ 三好映理子 様 おかやま信用金庫 山本剛史 様 山根万穂 様 岡山トヨペット 黒木彩那 様 笠岡信用組合 藤田正徳 様 古山綾子 様 Gateシステムズ 荒木穂積 様 湯浅ななみ 様 ザグザグ 服部未歩 様 スズキ岡山販売 頼経美徳 様 辻 友里恵 様 小林佳鈴 様 仁科百貨店 津神ひとみ 様 ビザビ 笠原明子 様 プレひまわり 藤原大輔 様 藤村 茜 様 ホテルグランヴィア岡山 霜山史江 様 宮原里 沙 様 マイナビ 奥原 峻 様	各ブース形式	体育館	スーツ 着用



## 学内合同企業研究セミナー 体育館実施の様子



### 参加人数一覧（人）

	実 参 加 人 数															
	人間栄養			子ども			国際教養			3年生	小計	総合生活	保育	情報ビジネス	小計	合計
	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	計						
第1回	22	0	0	5	0	0	15	1	0	42	43	-	-	-	0	43
第1回	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	46	42	34	122	122
第2回	24	0	0	4	0	0	8	0	0	36	36	42	21	17	80	116
第3回	0	0	0	64	0	0	8	0	0	72	72	21	45	18	84	156
第4回	6	0	0	62	0	0	9	0	0	77	77	30	23	13	66	143

実 参 加 人 数																
	人間栄養			子ども			国際教養			3年生	小計	総合生活	保育	情報ビジネス	小計	合計
	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	計						
第5回	0	0	0	59	0	0	5	0	0	64	64	22	20	18	60	124
第6回	0	0	0	0	0	0	13	0	0	13	13	31	30	15	76	89
第7回	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	4	12	0	23	35	39
第8回	2	0	0	16	0	0	6	0	0	24	24	28	20	24	72	96
第9回	1	0	0	11	0	0	5	0	0	17	17	12	0	16	28	45
第10回	2	0	0	17	0	0	0	0	0	19	19	13	0	11	24	43
第11回	0	0	0	43	0	0	5	0	0	48	48	20	9	14	43	91
第12回	0	0	0	6	0	0	8	0	0	14	14	11	0	30	41	55

## (2) 2024卒の就職ガイダンスのまとめ

日付 時間帯	回数	内容	講師他	形式	会場	準備物
2023 12/13(水) 14:50~16:20	14	知って役立つワークルール	就職支援部 部長 山口裕行 就職支援部 課長 山根康史 就職支援部 主査 安藤七重 就職支援部 事務員 徳永 咲	講義 寸劇	M301	
2023 12/19(火) 11:00~12:30	臨時	知って役立つワークルール	就職支援部 部長 山口裕行 就職支援部 事務員 徳永 咲	講義	1201A	

回数	人間栄養	子ども	国際教養	計	総合生活	保育	情報ビジネス	小計	合計
第14回	2	3	0	5	35	7	4	46	51
臨時	-	-	-	-	54	-	-	-	-

## 2. 学生生活への支援

学生が主体となって行う大学祭・七夕祭・クリスマス会等の学友会活動及びサークル活動が円滑に運営されるようサポートを実施した。

- ・ 学生生活実態調査、学生意見箱、学長と語る会、学生生活向上委員による提案会等を実施し、学生の意見を集約し、学生生活の改善に努めた。
- ・ 学生支援セミナーは、「学生課オリエンテーション」「くらしとお金のセミナー」「インターネットの危険性」「エイズ・性感染症・性教育講座」の4回実施した。
- ・ レンタルサイクルやレンタル傘等の日常生活支援

学生へのレンタル用に自転車9台、傘70本を常備し、学生への便宜を図っている。利用者数は、自転車延べ120人、レンタル傘延べ100人であった。今後も計画的に新しい自転車・傘を購入し、学生の利用を図る。

## 3. 学生相談及び健康管理の充実

学生の定期健康診断は、例年通り4月に実施し、受診率は99.6%であった。また、定期健康診断の事後措置として、有所見者60名に対して個別に健康指導を実施した。

学生相談については、臨床発達心理士と連携を図り学生の修学支援に努めた。  
障がい学生修学支援については、合理的配慮を実施した学生が4名であった。卒業する学生以外の1名の学生については、令和6年度も引き続き合理的配慮を行う。大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」とも連携を密にし、今後一層の支援対策を整えていく。

学生間での集団感染や感染拡大を未然に防止するため、麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・水痘の予防接種証明書の提出を徹底し、免疫有無の状態を把握している。また、定期健康診断の結果をもとに健康教育にも取り組んでいる。

#### 4. 学生への経済的支援

大学・短期大学とも高等教育修学支援新制度の対象機関として文部科学省より認定を受けている。

本学独自の奨学生制度では、令和5年度学業成績特待生に14名、修学支援優待生に5名が採用された。その他卒業生の子の入学優遇制度に17名、兄弟姉妹在学生支援制度に7名が該当した。日本学生支援機構の奨学生は令和5年度、大学、短大と合わせて606名で学生全体の64%に達している。(令和4年度66%)

さらに、本学提携の民間金融機関の教育ローンの紹介にも努め、個人相談にも随時対応した。

#### 5. 学生生活及び学生支援に関わる施設設備の充実

- ・1日学生駐車場の許可を含めた学生駐車場の有効活用

現在、学生用に91台分の学生駐車場を設けているが、令和5年度の許可台数は63台であった。また、臨時1日駐車場の許可台数は延べ590台であった。自動車通学の許可を受けた学生にはJAF及び岡山西警察署による交通安全講習会の受講を前期と後期の2回義務づけ、交通事故防止に繋げている。

- ・JR庭瀬駅からの通学路の交通安全指導

本学学生の大学5割、短大6割がJR通学している現状から、新入生オリエンテーションにおいて通学路における交通安全指導を行うとともに、授業開始の4月及び5月、そして秋の全国交通安全運動期間の9月に各1週間教員及び交通委員の学生が街頭交通安全指導を行った。

- ・学生食堂の食事内容やメニューの改善

学生食堂の業者に対し、学生のニーズにあった充実したメニュー作りを依頼し、徐々にではあるが学食利用者が増加している。学生食堂のメニューと売店の品揃えについて、業者と月に1度の話し合いの機会を設け改善に努めた。売店の商品の品揃えについて学生からの要望意見が多いことから、業者へ品揃えの充実を要請した。

- ・光風寮の設備・備品の更新や生活環境整備

学生寮の設備・備品の更新や改修を毎年進め、生活環境の改善・整備を推進している。本年度は、居室内の机と椅子を更新すると共に各個人用の郵便ロッカーを新調した。学生寮は、築30年以上となり老朽化が進んでいるが、計画的に改善を行っていく。

#### (3) 図書館活動の充実

以下の5項目により、図書館活動の充実を図る。

- 1) 学生の積極的な学習のための支援

- ・例年行っている新入生オリエンテーションは学部・学科の協力の下、実施することができた。
- ・OPAC検索や文献検索ガイダンスは、ゼミ等からの申し込みにより随時行う用意をしているが、今年度は「文献検索講習会」として事前に実施日を決めて参加者募集をしたところ、2組4名の参加者があった。

- ・国際教養学部国際教養学科 1 年の導入ゼミで OPAC 検索講習を行った。
- ・講習に使用する学生用マニュアルは講習会前に確認し、修正を行った。
- ・図書館長の担当した図書館講座「子ども・子育て新制度を考える」に福祉系の授業を履修している学生の参加があった。
- ・9 月に実店舗に赴くブックハンティングツアーを 4 年ぶりに行った。夏休み中の開催だったので学生参加者は 6 名と少なかったが、本を手にとって各々じっくりと選書している様子が伺われた。  
12 月から 1 月にかけて行ったウェブサイトを用いたインターネットブックハンティングには、5 名の学生が参加した。
- ・図書館大賞(大学生の部)へは読書感想文部門は応募無し、自由部門に 1 篇の応募があった。
- ・「中国学園図書館えほん講座(27) 図書館でクリスマス 2023」では学生が子どもたちへ木工の製作指導を行い、また、日頃の学修成果発表を行った。
- ・絵本用の予算を計上し、教員・学生・図書館スタッフで和書・洋書を問わず絵本を選定した。

## 2) 教育・研究推進の支援

- ・より専門的な資料を図書館運営委員会で募り、学部・学科から要望があった資料を順次購入した。
- ・機関リポジトリ公開のために使用している JPCOAR(オープンアクセスリポジトリ推進協会)のソフトが移行されたため、対応作業を行った。
- ・『中国学園紀要』第 22 号を「中国学園リポジトリ」にて公開した。

## 3) 大学の知的財産の積極的活用

- ・学生が資料を探しやすいよう、開架書架の整理・図書の移動を行っている。
- ・図書館システム未登録の図書館資料(図書・視聴覚資料)の入力を引き続き進めている。また、数年来入力作業を継続している各大学紀要のコンテンツの入力も行っている。

## 4) 資産の維持管理の強化

- ・学生サポーターや学生アルバイトを育成し、図書館活動を支える力とした。
- ・分野ごとに DVD・ビデオの並べ替えを行った。内容の古いビデオや DVD 資料は除籍・廃棄を行った。

## 5) 地域への貢献

- ・地域の小学校を対象とした読書感想文コンクールの募集は例年通り行い、117 篇の応募があった。白鷺祭 2 日目に表彰式を行い、式終了後は白鷺祭を見て楽しんでいただいた。
- ・図書館講座「子ども・子育て新制度を考える」には学外の方の参加があった。
- ・山陽新聞社の協力を得て小学生向けに新聞を使った学習講座「夏休み小学生新聞学習 in 中国学園図書館 2023」を行った。  
参加者 10 組 20 名
- ・岡山県の助成を受けて介護・福祉関係の講座を行った。  
「介護・福祉職員のためのスキルアップ講座」(全 3 回) 参加者 延べ 64 名  
「介護に+(プラス)いきいき実践」(全 3 回) 参加者 延べ 43 名
- ・地域の子どもたちをメインとして、12 月に「中国学園図書館えほん講座(27) 図書館でクリスマス 2023」を 2 回に分けて行った。1 回目に行った木工工作と読み聞かせは「第 74 回全国植樹祭 岡山 2024」開催記念「森・みどりがひろがる読み聞かせ支援事業」の一環として、岡山県から材料や絵本の補助をいただいた。

## (4) グローバル化の推進

本学のグローバル化は 2020 年度に設置した語学教育センターを中心に国際教養学部

等との連携・協力の下、進めている。

今年度下記の6項目を計画として立案していた。

- ・中国学園全体の日本語及び外国語教育の充実を推進する。
- ・新型コロナウイルス感染症収束後は、海外の大学等の教育機関との連携を進め、留学制度を充実させ、留学しやすい環境を整える。
- ・オンライン等により海外の大学と学生間、教員間交流を促進する。
- ・海外の大学との新しいグローバル教育を構築する。
- ・海外に進出している企業と連携して、海外インターンシップなどの研修制度を整える。
- ・海外提携大学先を増やし、学生間及び教員間の交流を促進する。

令和5年度の実績としては、

- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、夏休みに1名短期留学にカナダのバンクーバーに学生を送り出した。当該学生は、大変満足して帰国した。
- ・令和5年度にMOUの再締結を行った大学は3校：ハワイ大学（アメリカ）、グアム大学（アメリカ）、カルガリー大学（カナダ）である。

## （5）ICT化の推進

令和5年度の「ICT化の推進」において、本学では情報処理センターによる大規模な情報システムの更新とともに、本センターとの連携の形で情報教育センターによる具体的な教育プログラム開発が行われた。これらの取り組みは、デジタル化が進む教育環境への適応並びに学生の情報リテラシー強化を目的としたものである。

- ・情報システムに関しては、「GAKUEN RX」と「UNIVERSAL PASSPORT RX」の導入により、学生情報の一元管理が可能となったことで教育データの蓄積と活用が進んだ。これにより、教育の質の向上とアクセスの公平性が図られると同時に、教職員がデータに基づいた効果的な学生支援を行う基盤が整った。また、インフラの強化として、LAN回線と光ファイバーの増強を実施したことで、システムの応答速度の向上と安定稼働が実現された。
- ・更に、情報教育センターでは、義務教育から始まるプログラミング教育への対応を推し進めるため、新しいプログラミング教材の開発に着手した。教職員へは、これらを活用することにより、学生に対する基本的な情報リテラシー教育や情報モラル教育を推進出来る旨広く周知を図った。また、プログラミング教育においては、実践的な教材を用いて学びの効果を高める取り組みの試行を行った。本教材は、令和6年度の授業での積極的な活用を目指している。
- ・現在、オンライン情報発信に供するブースの企画・開発に取り組んでおり、令和6年度中の本格運用を目指している。本ブースを通じて学生や教職員が情報を共有し、互いに学びを深めるプラットフォームの機能が期待される。

## （6）地域貢献への取り組みの推進

2021年度に設置した地域支援センターを中心に、地方自治体、地元産業界等と連携して地域の活性化に寄与し、「地域に愛される開かれた大学」としての本学の特色をさらにアピールする。

### ①地方自治体、地元産業界との連携の推進

#### 1) 包括的な連携協定の締結

- ・10月11日（株）廣榮堂  
協定数15件（自治体5件、法人10件）

#### 2) 岡山・産学官連携推進会議

- ・幹事として、幹事会に出席(1/22)

### ②大学コンソーシアム岡山の事業、吉備・陵南学区のイベント等への積極的参画

#### 1) 大学コンソーシアム岡山の事業への参画

- ・令和5年度「吉備創生カレッジ」への科目提供
  - 『『古い』という錯覚』(4/21)総合生活学科教授 韓在都 【28名】
  - 『オペラって面白い』(5/26)情報ビジネス学科教授 河田健二 【8名】
  - 『染色体験』(6/16)子ども学科教授 齊藤佳子 【9名】
  - 『対話型美術鑑賞』(10/2)保育学科准教授 鳥越亜矢
  - 『運動はなぜ健康に良いのか』(10/26)人間栄養学科教授 井之川仁
- ・令和5年度「日ようび子ども大学」(6/11:岡山県生涯学習センター)
  - 『プラバン&センサーボトルでアクセサリーをつくろう!』子ども学科教員3名・学生16名【親子160組以上】
- 2) 吉備・陵南学区のイベント等への参画
  - ・令和5年度「吉備・陵南おかやま木堂ふるさとまつり」(7/29:吉備中学校)
    - ダンスサークルがステージに出演。
  - ・11月5日開催の「第19回吉備・陵南まちかど博物館」については、本学も後援し、実行委員会へ担当職員が参加した。
- ③令和5年度私立大学等改革総合支援事業への応募
  - ・令和4年度から5年度前期にかけての地域貢献への取組みを踏まえ、文部科学省の補助事業「令和5年度私立大学等改革総合支援事業タイプ3:地域社会の発展への貢献」へ法人として申請したが、残念ながら大学・短大とも採択に至らなかった。

## (7) 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

優秀な教職員を安定的に確保し、その資質向上を図ることは学校法人の重要な課題である。授業内容・方法の改善を目指した組織的な取組みであるFD(ファカルティ・ディベロップメント)と職員の資質向上のための組織的な取組みであるSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を積極的に進めるとともにIRセンターで教学関係のデータ分析と可視化を行い、情報の共有化を図るため、次のことを実施した。

- ・FD委員会の活性化
  - 今年度の審議事項としては、FD研修会の内容・授業評価アンケート、卒業生アンケートの実施・公開授業の実施について、より効率的な方法で参加しやすい計画を立案した。
- ・FD研修会の実施と授業へのフィードバック
  - FD研修会については、第1回(8/8 大学・短期大学別)内容として、「UNIPAの活用法」と「生成系AIを試してみよう」の2テーマを掲げ、研修を実施した。第2回(9/5)には、「学生の学修時間・学修行動を踏まえた教育活動の見直しー学生生活実態調査アンケート2022の結果を踏まえてー」という内容で、各学部・学科でアンケート結果を基に与えられた項目について話し合い、発表がされた。このFD研修で協議したことが実際に教育の改善に生かされることが求められている。
  - また当日欠席した教員に対しては、研修の様子をビデオ撮影し、後日視聴する措置をとり、感想を求めることで出席とカウントした。出席率は100%である。本年度の第3回FD研修会を、令和6年2月29日に開催した。
- ・公開研究授業の拡大と充実
  - 新任教員の参加を必須とした。ほぼ全授業が公開されており大学・短期大学の枠を超えた授業研究が可能である。
  - また、公開授業期間の案内は、主な会議で告知するとともに、新教務シス(UnIPA)掲示板で周知している。公開授業への参加人数としては、今年度前期は大学3名、短期大学8名の教員が参加した。後期は大学3名、短期大学8名の教員が参加した。
- ・学生による授業アンケートの改善・充実と集計結果の公表
  - 昨年度までは、外部委託で授業科目別QRコード作成してもらい、その都度学生がスマートフォンで読み取り授業内で実施し、集計結果を郵送してもらう行程をたどっていた。今年度から新教務システムによる授業評価アンケートが稼働し、学生



がアンケート回答期間であればいつ、どこでも対応できる環境が整った。

また、期間終了と同時にシステム内において集計ができることで、担当教員へ結果送信が即日対応可能となった。その結果、教員が学生からのコメントに対し、フィードバックする方法として同一画面を使用し、入力することができるようになった。併せてホームページへの掲載についてもスムーズに行えた。

・シラバスの改善・充実

本年度から新教務システムでのシラバス入力となる。年度に応じた「授業概要(シラバス)作成の手引 2023」を作成するとともに、具体的な学習内容の記載を促すために、資料の作成及び UNIPA でのシラバス入稿方法についても教員へ提示できるよう準備を行った。

・SD委員会による職員の研修計画等の策定

喫緊の課題である経営状況の実態を周知するために、財務状況を中心とした内容での研修を計画した。

・SD研修会の充実と全教職員の参加

9月13日に本学教職員を対象とした「本学の経営課題と今後の展望」本学の財務状況」と題して、事務局長及び経理課長を講師とした。

当日参加できない教職員のためにビデオで受講できる措置を行った。

・IRセンターで教学関係のデータ分析と可視化。

IRセンターでは、中国学園大学・中国短期大学の教学 IR に関する実施状況を調査し、収集したデータを分析・可視化した。分析した情報は全学の各部局代表で構成された IR センター運営委員会を通して学内共有し、各学部学科、事務部局の教学 IR の自己検証と教育改善に役立てるとともに、幹部会、教授会を通して大学執行部へ学内 IR 情報の現状と分析結果を提供した。

令和5年度の主な IR 調査業務内容は以下の通りである。

- (1) 大学教育内容等の改革状況について：中国学園における取組み実施の調査概要と分析。
- (2) 中国学園ポートレート：中国学園教職員の基本情報（「学生教職員」「学部学生」「卒業後の進路」）に関する資料一覧取り纏めと学内公開サイトの開設。
- (3) GPA 分析（初年次と卒年次の GPA 相関分析等）。
- (4) 学生確保（入学志願者、合格率、定員充足率、退学率、留年率等）に関する経年分析。
- (5) 教員データベースの整備。
- (6) 科研費及び外部資金取得状況の調査分析と科研費獲得対策。
- (7) 資格試験取得状況の調査分析。
- (8) 中国学園に関する新聞記事掲載状況調査。  
(これら項目は前年度を含む経年調査として通年で分析を行っている。)

**(8) 自己点検・評価及び認証評価の取組みの推進**

本学は、短期大学が（財）短期大学基準協会の3巡目の評価を受け、令和4年度末に適格認定書を交付されたところである。

大学においては、令和平成28年度に（財）日本高等教育評価機構の2巡目の受審を受け、平成29年3月7日付けで適格認定書の交付を受けており、令和5年度に第3クルールの第三者評価機関による認証評価を11月21日・22日に受審。第3クルールの基準に対応した体制を整備し、その準備を進めるとともに IR センター等で根拠資料・データ（エビデンス資料）の収集・分析とともに適正な自己点検・評価を行なった結果、令和6年3月に適格認定書の交付を受け評価結果を web 等に公表したところである。

## (9) 経営基盤の強化

### ①円滑な管理運営

#### ア. ガバナンスの確立

私立学校の経営体制の安定と財政基盤の充実には、ガバナンスの確立が必要である。そのため、2020年度に設置したIRセンターで各種情報の収集・分析を行うとともに理事会の法人業務の最終意思決定機関としての位置付けや学内理事による常任理事会の設置により、円滑な大学運営を図っている。また、「理事会業務委任規則」等の確実な実施運営や常任理事会議の充実等、内部監査組織の機能強化とコンプライアンスに務めている。

#### イ. リスク管理体制の構築

危機管理マニュアルに基づき危機管理と危機対策を推進するとともにコンプライアンスの強化を図っている。

- ・各種危機への迅速で的確な対応の推進
- ・有人警備システムの効率的運用
- ・防犯カメラの増設（7カ所）
- ・寮のセキュリティ管理の見直し（舎監の夜間不在の対応）
- ・防災組織（消防組織、火災訓練等）の確立
- ・学生の避難訓練の実施
- ・ネットワーク環境とセキュリティ管理のさらなる充実 等

### ②健全な財政運営

激変する環境に対応し、将来に向けて安定した財務基盤を維持していくため、諸課題に具体的に対処し、方向性を明確にしたうえで、今後取り組むべき事業に経営資源を集中する。

中期計画上の施設設備拡充・整備事業計画に必要な資金を確保するため、中長期的収支差額の見通し、単年度収支差額の状況を精査し、早急に収支構造の改善を図る。

教育研究活動のキャッシュフローを確保すると同時に各種財務関係比率の適正化を図る。

- ・経常収支の根幹である「学納金」と「人件費」のバランスに留意し、人員配置の見直しと共に業務の効率化を図り、中期計画に沿い、適正と判断される比率の確保を目指す。

人件費率 (人件費/経常収入)	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	71.5%	69.9%	71.2%	70.8%	78.0%

- ・教育研究の充実のため、教育の質の向上、研究の活性化など、より特色のある大学づくりに向けて、教学の理念に沿い、学生の主体性を引き出せ、地域社会に繋げる事業への支出とする。

教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	37.3%	38.3%	39.8%	39.8%	42.6%

- ・管理経費については、先例にとらわれず、支出の内容について費用対効果、内容の妥当性を十分検討し、不急の支出を抑制すると共に今後の環境変化に柔軟に対応するため、組織の変革に資する支出とする。

管理経費率 (管理経費/経常収入)	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	7.4%	6.7%	6.8%	6.1%	6.1%



#### イ. 施設設備及び各種システムの整備充実

本館等建築から経過年数の長い施設の調査を行い、改修計画を策定し、順次整備に取りかかっている。

また、質の高い教育研究の展開を可能にするために、施設設備の整備、各種システムの構築、更新・充実を引続き進める。

令和5年度は、次の事業を実施した。

- ・正門舗装改修工事は完了している。
- ・1号館1202教室、1203教室、11号館k-102教室映像設備更新は完了している。
- ・1号館、12号館エレベーター修繕は完了している。
- ・11号館空調設備修繕は完了している。

なお、今年度発生した図書館外壁の一部落下について現在業者と改修方法を含めて検討を行っているところである。

#### ウ. E C O対策への取り組み

本学のE C O対策への取り組みについては、従前から、建物のトップライト方式や冷暖房設備を吸収式冷暖房設備からG H P（ガスヒートポンプ）冷暖房設備への切替え等を実施しているところである。

今年度もE C O対策の周知徹底を図るとともに次の取り組みを順次実施している。

- ・照明器具をL E D照明に更新の着実な実施。

#### エ. 職員の給与

本法人の職員給与については、人件費の適正化に向け、財源となる本学の財政状況を見ながら、検討することとする。

### (10) 情報公開の推進

私立学校法等により情報公開が義務付けられている以外の情報についてもインターネットを利用して積極的に公開する。特に最新の情報やトピックスの発信を積極的に行っている。

## (2) 研究教育の概要

### ①教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	
	子ども学部	子ども学科	
	国際教養学部	国際教養学科	
	現代生活学研究科		人間栄養学専攻
	子ども学研究科		子ども学専攻
中国短期大学	総合生活学科		
	保育学科		
	情報ビジネス学科		

## ②教員組織及び教員数

(令和5年5月1日)

大学等	学部・研究科等	学 科	教員数
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	19人
	子ども学部	子ども学科	17人
	国際教養学部	国際教養学科	11人
	現代生活学研究科	(人間栄養学専攻)	(基礎学部を含む)
	子ども学研究科	(子ども学専攻)	(基礎学部を含む)
中国短期大学	総合生活学科		8人
	保育学科		10人
	情報ビジネス学科		7人

## ③学生に関する情報

大学等	学部・研究科等	入学定員	収容定員
中国学園大学	現代生活学部 人間栄養学科	80 3年次編入4	328
	子ども学部 子ども学科	100 3年次編入5	410
	国際教養学部 国際教養学科	50 3年次編入5	210
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	5	10
	子ども学研究科 子ども学専攻	5	10
	小 計	240	968
中国短期大学	総合生活学科	85	170
	保育学科	120	240
	情報ビジネス学科	80	160
	小 計	285	570
合 計		525	1,538

### 【大学・短大：入学に関する基本的な方針】

- ・現代生活学部 人間栄養学科：中国学園大学学則第1条の2の第1号による
- ・子ども学部 子ども学科：中国学園大学学則第1条の2の第2号による
- ・国際教養学部 国際教養学科：中国学園大学学則第1条の2の第3号による
- ・現代生活学研究科 人間栄養学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第1号による
- ・子ども学研究科 子ども学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第2号による
- ・総合生活学科：中国短期大学学則第1条の2の第1号による
- ・保育学科：中国短期大学学則第1条の2の第2号による
- ・情報ビジネス学科：中国短期大学学則第1条の2の第4号による

#### ④学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科等	所在地	主な交通手段
中国学園大学	庭瀬 キャンパス	現代生活学部 人間栄養学科 子ども学部 子ども学科 国際教養学部 国際教養学科 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 子ども学研究科 子ども学専攻	岡山市北区庭瀬 83番地	山陽本線庭瀬駅 下車 徒歩15分
中国短期大学		総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科		

#### ⑤学生納付金に関する情報

学部・学科		授業料		入学料		その他の費用徴収	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
中国 学園 大学	現代生活学部 人間栄養学科	50万円	4月20日	25万円	入学手続時	50万円	4月20日
			10月20日				
	子ども学部 子ども学科	50万円	4月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日
			10月20日				
	国際教養学部 国際教養学科	59万円	4月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日
	10月20日						10月20日
現代生活学研究科 人間栄養学専攻	40万円	4月20日	25万円	入学手続時	30万円	4月20日	
		10月20日					10月20日
子ども学研究科 子ども学専攻	40万円	4月20日	25万円	入学手続時	20万円	4月20日	
		10月20日					10月20日
中国 短期 大学	総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科	41万円	4月20日	25万円	入学手続時	38万円	4月20日
			10月20日				

#### ⑥学生支援と奨学金に関する情報

〈学生支援〉

区分	組織名	機能
就職支援	就職支援センター	Face to Faceの支援(一人ひとりを大切に した面談) 迅速な情報発信(求人・就職情報を一人ひと りに配信) 豊富な視聴覚教材(就職活動の基本をDVD教 材で学習)

		企業との信頼関係（ガイダンス、インターンシップ、実習等による） 卒業後のフォロー（卒業後の再就職の相談）
生活支援 （学生寮、アルバイト等）	学生課	各種情報を掲示することで学生に随時紹介している
保健・衛生	保健室	専門職員を配置し、健康に関する相談、けがや病気の応急措置等に対応している 定期健康診断の実施及び健康診断証明書の発行
メンタルヘルス	学生相談室	専門職員がインテーカーとして対人関係・学業・進路・心の健康等の相談に応じている

#### 〈奨学金〉

種 類	要 件	申 込 方 法
日本学生支援機構 給付奨学金 貸与奨学金 （第一種） （第二種）	〔給付〕 住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯で学ぶ意欲がある学生 〔貸与〕 経済的理由により修学が困難で、優れた学生であると認められる者	本人の願い出により、学生課を経由して申請
地方公共団体による奨学金 ・岡山市奨学生 ・倉敷市奨学生	それぞれの市内居住者またはその子ども 人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由により修学困難 他の奨学金を受けていないこと等	本人が直接該当市教育委員会事務局へ申請 担任による推薦調書が必要
ノートルダム育英財団	岡山県内の大学・短大に在学する学生（1年・院博士課程は除く） 人物、学業ともに優れ、将来社会貢献を期待できる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 指導教官の推薦書が必要
あしなが育英会	病気や災害、自死（自殺）などで親を亡くした学生や、障がいなどで親が十分に働けない家庭の学生	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長、学科長の推薦が必要
交通遺児育英会	保護者等が交通事故で死亡したり、重い後遺障害のために働けず、経済的に修学困難な学生	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長、学科長の推薦が必要
公益財団法人 小松奨学財団	人物・学業ともに優秀で経済的援助が必要と認められる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長、学科長の推薦が必要

#### 〈特待生・優待生等〉

種 類	減 免 額 等	対 象	対象学生
学業成績特待生制度	A：入学金全学及び授	一般選抜Ⅰ期（A日程・	大学、短大

(新入生)	業料(1年間)の全額免除 B: 入学金全学及び授業料(1年間)の半額免除	B日程), 一般選抜(共通テスト利用I期)入学試験において特に成績優秀であった者	1年次生
学業成績特待生制度(在學生)	10万円の給付	学業、人物ともに優れた者	大学2・3・4年次生 短大2年次生
修学支援制度	①授業料(1年間)の半額免除  ②10万円以内の給付	①経済的に修学が困難になった者で成績良好な者  ②収入激減等により生活困窮者となった者	全学年
卒業生の子の入学優待制度	入学金の免除	本学卒業生を保護者とする新入生	1年次生
兄弟姉妹・在學生支援制度	在学期間の弟妹の授業料1/3相当額の免除	本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟又は妹	全学年
沖縄県等遠隔地学生支援制度	入学金の免除及び寮費、管理費の半額免除	沖縄県等からの入学者	全学年
学校推薦型選抜(指定校—連携協定校)入學生支援制度	入学金の免除	学校推薦型選抜(指定校—連携協定校)入学者	大学, 短大 1年次生

### (3) こども園の概要

#### ①名称等

名 称	形 態	所 在 地	主な交通手段
中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園	幼保連携型認定こども園	岡山市北区中撫川351番地	JR山陽本線庭瀬駅(約2.3Km) 岡電・両備・下電バス撫川停留所(約1Km)

#### ②園児の状況

##### 1) 定員：200人

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
15人	15人	15人	25人	35人	35人	12人	24人	24人

##### 2) 在籍者数：184人

(令和5年5月1日現在)

1号認定	2号認定	3号認定

3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
11人	9人	12人	23人	35人	34人	12人	24人	24人

### ③教育・保育時間

1号認定	2・3号認定
月曜日～金曜日  休業日：土曜日・日曜日・学年始休業日・夏季休業日・冬季休業日・学年末休業日・国民の祝日に関する法律に規定する休日	月曜日～土曜日  休園日：日曜日・年末年始・国民の祝日に関する法律に規定する休日
【教育時間】  9:00～14:00	【教育・保育時間】  〈標準時間認定〉 7:00～18:00 〈短時間認定〉 8:30～16:30
○一時預かり	○延長保育 ○一時預かり

## (4) 財務の概要

### (1) 資金収支の推移 (法人全体)

資金収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、資金の顛末を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

#### 資金収支計算書の状況

(単位：千円)

収入の部					
科 目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	1,148,870	1,135,319	1,064,486	1,006,582	933,504
手数料収入	16,025	13,942	13,300	12,264	11,396
寄付金収入	6,490	5,571	12,890	21,860	6,000
補助金収入	296,232	392,463	365,506	383,248	366,168
国庫補助金収入	128,675	189,569	170,835	179,435	166,253
地方公共団体補助金収入	167,557	202,893	194,672	203,814	199,916
資産売却収入	300,000	949,489	881,971	700,005	300,000
付随事業・収益事業収入	11,494	13,433	10,822	8,525	5,701
受取利息・配当金収入	26,619	21,683	32,015	32,574	4,411
雑収入	39,945	62,316	32,014	61,807	92,822
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	291,157	232,143	231,250	212,805	189,472
その他の収入	666,641	403,570	390,691	385,390	387,057
資金収入調整勘定	△ 345,721	△ 370,653	△ 261,511	△ 293,287	△ 309,782
前年度繰越支払資金	827,807	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307
収入の部合計	3,285,561	3,843,290	3,605,984	3,599,307	3,510,055
支出の部					
科 目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	1,103,117	1,136,952	1,089,390	1,088,337	1,115,979
教育研究経費支出	305,447	345,454	352,243	363,538	350,858
管理経費支出	101,580	98,531	93,137	82,186	77,652
借入金等利息支出	3,799	3,214	2,630	2,046	1,952
借入金等返済支出	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
施設関係支出	10,731	3,949	7,796	605	5,272
設備関係支出	37,852	75,770	41,775	65,797	124,683
資産運用支出	400,000	952,000	600,000	100,000	0
その他の支出	353,164	412,872	359,165	398,748	376,223
資金支出調整勘定	△ 44,903	△ 48,762	△ 38,446	△ 56,017	△ 94,385
翌年度繰越支払資金	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061
支出の部合計	3,285,561	3,843,290	3,605,984	3,599,307	3,510,055

\*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

## (2) 活動ごとの資金収支の推移（法人全体）

活動区分資金収支計算書は、学校法人の活動ごとの資金の流れを明らかにすることを目的として作成される計算書です。

具体的には、資金収支計算書の決算額を①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に区分したものです。

法人名：学校法人 中国学園

### 活動区分資金収支計算書の状況

(単位：千円)

教育活動による資金収支	科目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	収入	学生生徒等納付金収入	1,148,870	1,135,319	1,064,486	1,006,582	933,504
	手数料収入	16,025	13,942	13,300	12,264	11,396	
	経常費等補助金収入	290,938	375,681	365,433	383,248	366,168	
	教育活動資金収入計	1,508,763	1,601,261	1,493,945	1,489,286	1,410,591	
支出	人件費支出	1,103,117	1,136,952	1,089,390	1,088,337	1,115,979	
	教育研究経費支出	305,447	345,454	352,243	363,538	350,858	
	調整勘定等	△ 17,165	△ 94,695	34,256	△ 43,068	△ 60,934	
施設整備等活動による資金収支	科目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	収入	施設設備補助金収入	5,294	16,782	73	0	0
		施設整備等活動資金収入計	10,294	21,804	5,073	5,005	5,000
	支出	施設関係支出	10,731	3,949	7,796	605	5,272
		設備関係支出	37,852	75,770	41,775	65,797	124,683
		施設整備等活動資金支出計	48,583	79,719	49,571	66,402	129,955
		差引	△ 38,289	△ 57,915	△ 44,498	△ 61,397	△ 124,955
		調整勘定等	315,670	△ 8,876	3,737	10,616	50,247
	施設整備等活動資金収支差額	277,381	△ 66,792	△ 40,761	△ 50,781	△ 74,708	
その他の活動による資金収支	科目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	収入	借入金等収入	0	0	0	0	0
		小計	616,509	1,307,514	1,194,854	1,057,869	626,003
		受取利息・配当金収入	26,619	21,683	32,015	32,574	4,411
		その他の活動資金収入計	643,128	1,329,197	1,226,870	1,090,443	630,413
	支出	借入金等返済支出	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
		小計	741,956	1,336,286	941,924	494,001	361,168
		借入金等利息支出	3,799	3,214	2,630	2,046	1,952
	調整勘定等	0	0	0	0	0	
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	156,207	△ 151,465	234,986	455,772	△ 2,247	
	前年度繰越支払資金	827,807	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	
	翌年度繰越支払資金	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061	

\* 主要科目のみ表示している場合、各計が一致していない場合があります。また科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。



### (3) 事業活動収支の推移（法人全体）

事業活動収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の事業活動収支の内容を明確にし、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を表すものです。

法人名:学校法人 中国学園

#### 事業活動収支計算書の状況

(単位:千円)

		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	科目					
		学生生徒等納付金	1,148,870	1,135,319	1,064,486	1,006,582	933,504
		手数料	16,025	13,942	13,300	12,264	11,396
		寄付金	1,490	3,196	7,890	16,860	1,000
		経常費等補助金	290,938	375,681	365,433	383,248	366,168
		付随事業収入	11,494	13,433	10,822	8,525	5,701
		雑収入	39,945	62,316	32,014	61,807	92,822
		教育活動収入計	1,508,763	1,603,886	1,493,945	1,489,286	1,410,591
	事業活動支出の部	科目					
		人件費	1,098,099	1,136,198	1,086,368	1,077,922	1,103,966
		教育研究経費	572,261	622,016	607,128	605,888	602,308
		管理経費	112,971	109,632	103,721	92,364	86,893
		徴収不能額等	2,809	1,275	2,164	983	1,285
教育活動支出計		1,786,140	1,869,121	1,799,381	1,777,156	1,794,452	
教育活動収支差額	△ 277,378	△ 265,235	△ 305,436	△ 287,870	△ 383,861		
教育活動外収支	科目						
	受取利息・配当金	26,668	21,683	32,015	32,574	4,411	
	教育活動外収入計	26,668	21,683	32,015	32,574	4,411	
	科目						
	借入金等利息	3,799	3,214	2,630	2,046	1,952	
	教育活動外支出計	3,799	3,214	2,630	2,046	1,952	
教育活動外収支差額	22,869	18,469	29,385	30,528	2,459		
経常収支差額	△ 254,509	△ 246,767	△ 276,051	△ 257,342	△ 381,402		
特別収支	事業活動収入の部	科目					
		資産売却差額	0	240	0	0	0
		その他の特別収入	10,505	23,419	6,158	6,023	6,139
		特別収入計	10,505	23,659	6,158	6,023	6,139
	事業活動支出の部	科目					
		資産処分差額	311	11,216	20,305	7,796	657
		その他の特別支出	28,000	29,565	0	0	638
		特別支出計	28,311	40,781	20,305	7,796	1,295
		特別収支差額	△ 17,806	△ 17,122	△ 14,147	△ 1,773	4,843
		基本金組入前当年度収支差額	△ 272,315	△ 263,889	△ 290,197	△ 259,115	△ 376,559
基本金組入額合計	△ 47,742	△ 80,770	△ 102,009	△ 73,577	△ 97,997		
当年度収支差額	△ 320,057	△ 344,659	△ 392,207	△ 332,693	△ 474,556		
前年度繰越収支差額	△ 2,765,360	△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976		
基本金取崩額	0	0	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976	△ 4,629,533		
(参考)							
事業活動収入計	1,545,935	1,649,228	1,532,118	1,527,882	1,421,140		
事業活動支出計	1,818,250	1,913,117	1,822,315	1,786,998	1,797,699		

\*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

#### (4) 貸借対照表(資産の状況)の推移(法人全体)

貸借対照表は期末(会計年度末:3月31日)における資産・負債・純資産(基本金および繰越収支差額)を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

法人名: 学校法人 中国学園

#### 貸借対照表の状況

(単位:千円)

資産の部	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	8,017,754	7,365,487	7,189,007	6,495,613	6,068,841
有形固定資産	6,815,039	6,601,428	6,385,116	6,192,262	6,030,200
土地	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646
建物	4,649,338	4,454,186	4,278,211	4,102,350	3,927,282
構築物	249,199	225,203	205,511	183,395	167,558
教育研究用機器備品	191,005	204,439	182,639	185,590	208,904
その他の機器備品	11,699	9,779	9,526	15,988	18,061
図書	399,152	393,176	394,585	390,293	393,750
車両	0	0	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	1,202,715	764,058	803,891	303,352	38,641
電話加入権	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102
無形固定資産	0	0	0	0	31,219
有価証券	1,199,910	752,150	802,150	302,150	2,150
施設設備補充引当特定資産	0	0	0	0	0
長期未収入金	0	0	0	0	0
長期前払金	1,703	10,807	639	100	4,169
流動資産	1,036,494	1,372,172	1,204,590	1,585,187	1,621,520
現金預金	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061
未収入金	45,427	78,124	27,521	61,054	95,693
有価証券	0	450,000	100,000	0	0
立替金	6,735	0	0	0	0
前払金	318	11,498	9,534	825	4,767
資産の部合計	9,054,249	8,737,658	8,393,597	8,080,800	7,690,361

(単位:千円)

(単位:千円)

負債の部	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定負債	552,124	550,762	508,758	477,137	477,856
長期借入金	153,800	123,040	92,280	61,520	30,760
退職給与引当金	386,169	414,980	411,958	401,544	389,530
長期未払金	12,155	12,742	4,520	14,074	57,565
流動負債	399,538	348,198	336,339	314,278	299,679
短期借入金	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
未払金	37,968	47,857	35,171	36,928	50,068
前受金	291,157	232,143	231,250	212,805	189,472
預り金	39,653	37,438	39,158	33,785	29,380
負債の部合計	951,662	898,961	845,097	791,416	777,535
純資産の部					
基本金	11,188,004	11,268,774	11,370,784	11,444,361	11,542,359
第1号基本金	11,084,004	11,164,774	11,243,784	11,317,361	11,415,359
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	104,000	104,000	127,000	127,000	127,000
繰越収支差額	△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976	△ 4,629,533
純資産の部合計	8,102,586	7,838,698	7,548,500	7,289,385	6,912,826
負債及び純資産の部合計	9,054,249	8,737,658	8,393,597	8,080,800	7,690,361

\*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

## (5) 主な財務比率の推移(法人全体)

### ◆ 事業活動収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する人件費の占める割合を示しています。この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	71.5%	69.9%	71.2%	70.8%	78.0%
2	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する教育研究経費の占める割合を示しています。この比率は収支均衡を失わない範囲内で高くなることを望ましいとされています。	37.3%	38.3%	39.8%	39.8%	42.6%
3	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する管理経費の占める割合を示しています。ある程度の支出は止むを得ないものの、比率は低い方が望ましいとされています。	7.4%	6.7%	6.8%	6.1%	6.1%
4	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	経常収入から経常支出を差し引いた経常収支差額の経常収入に対する割合で、経常的な収支バランスを表す比率です。	△16.6%	△15.2%	△18.1%	△16.9%	△27.0%
5	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額の教育活動収入に対する割合で、本業である教育活動の収支バランスを示す比率です。	△18.4%	△16.5%	△20.4%	△19.3%	△27.2%

\* 「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計

### ◆ 活動区分資金収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。	△1.2%	△4.6%	△0.4%	△5.9%	△13.8%

\* 教育活動資金収入計=学生生徒等納付金収入+手数料収入+特別寄付金収入+一般寄付金収入+経常費等補助金収入+付随事業収入+雑収入

教育活動資金支出計=人件費支出+教育研究経費支出+管理経費支出

教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計-教育活動資金支出計+教育活動調整勘定等

### ◆ 貸借対照表関係比率

	比率	計算式	比率の意味	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	一年以内に支出しなければならない流動負債に対して、現金預金など現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期の支払能力を判断する重要な指標です。	259.4%	394.1%	358.1%	504.4%	541.1%
2	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	施設設備の更新や教職員の退職金資金等、将来の確定的債務等について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを表す比率です。この比率は高い方が望ましいとされています。	44.9%	39.5%	36.4%	32.4%	25.9%

\* 運用資産=現金預金+特定資産+有価証券(固定・流動)

要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金